

2022年3月期 決算説明会

2022年 5月 18日

株式会社ジェイテクト

実績

売上収益は、新型コロナ・半導体不足が継続するも、自動車生産の回復等により、前年比+14.6%増収の1兆4,284億円。
当期利益は、売上増に加え原価低減や構造改革等の取り組み成果もあり、前年比+198億円増益の206億円。

業績予想

2022年度業績予想は、外部環境の見通しが引き続き不透明なものの、**更なる原価低減や固定費抑制等の対策による収益体質の改善を進め、売上収益 1兆6,000億円、当期利益 250億円とする。**

株主還元

- ・2021年度の期末配当は**10円**とする。 ※2月4日公表比**+2円増配** (中間8円と合わせて年間配当18円、配当性向 29.8%)
- ・2022年度の配当予想は**年間22円**とする。
(**前年比+4円増配**、中間11円・期末11円、配当性向 30.2%)

I. 決算

1. 2022年3月期 実績
2. 2023年3月期 業績予想

II. 中期経営計画の達成に向けた取り組み

1. 2021年度 中期経営計画
2. 2021年度 振り返り
3. 2022年度 重点取組み

参考資料

1-1) 実績－連結損益

- 売上収益は、市場環境の回復等により**全地域・全事業で増収**
- 事業利益は、**材料費・物流費の増加等**、外部環境変化による影響が大きく一部地域・事業で減益も、**原価低減・固定費抑制等で体質は着実に改善**

()内は売上収益比

単位：億円

	21/3期 実績	22/3期 実績	増減額	増減率
売上収益	12,462	14,284	+1,821	+ 14.6%
事業利益 ※1	(1.3%) 159	(3.0%) 423	+264	+ 166.1%
営業利益	(1.0%) 129	(2.5%) 364	+234	+ 181.7%
税引前利益	(1.2%) 153	(3.1%) 439	+285	+ 186.2%
当期利益 ※2	(0.1%) 8	(1.4%) 206	+198	-
為替レート USD	106.06円	112.38円	6.32円 円安	
為替レート EUR	123.70円	130.56円	6.86円 円安	
1株当たり当期利益	2円33銭	60円31銭		

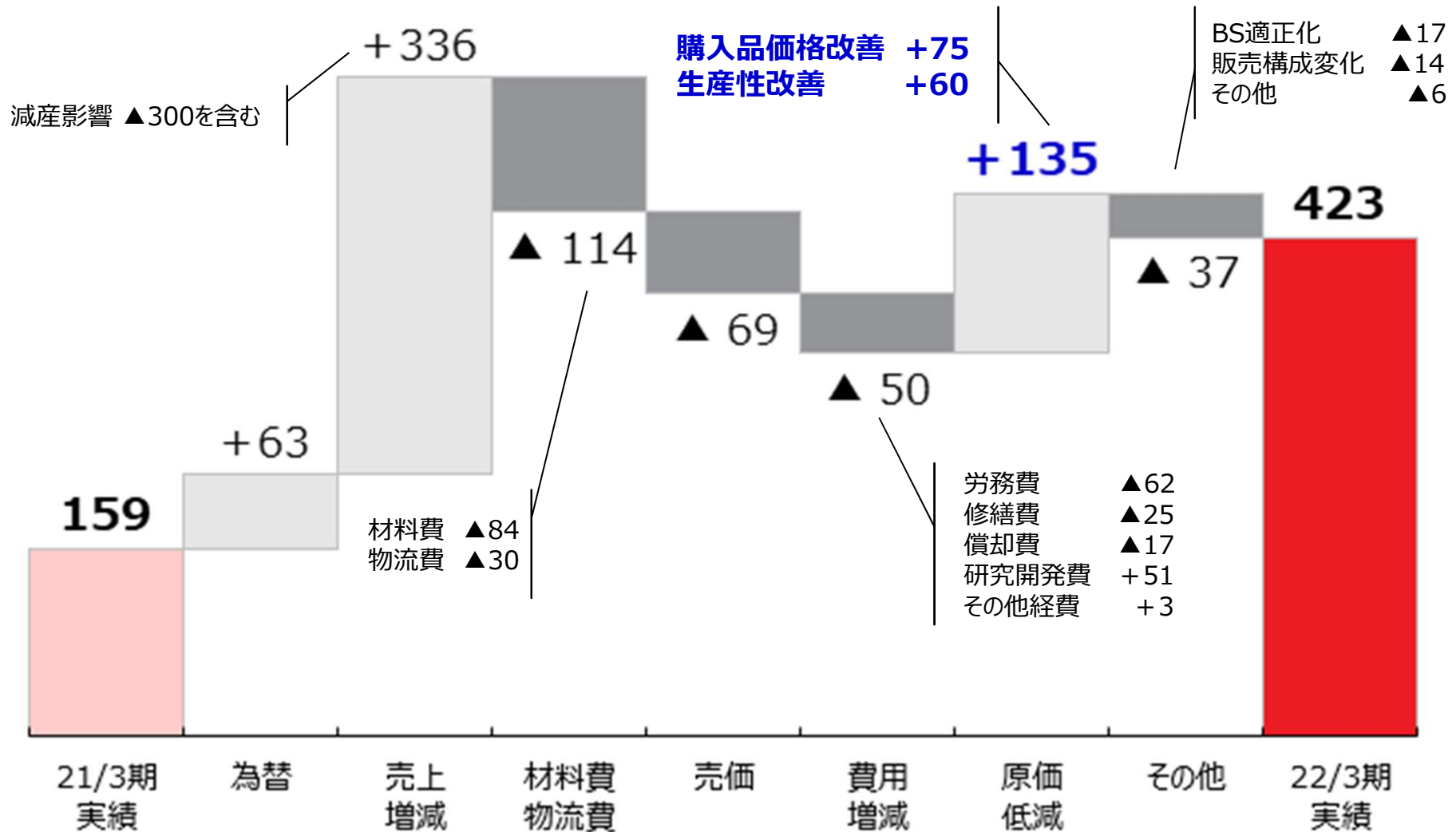
(※1) 「売上収益」から「売上原価」と「販売費および一般管理費」を控除した当社独自の管理利益

(※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

1-2) 実績 - 事業利益増減分析



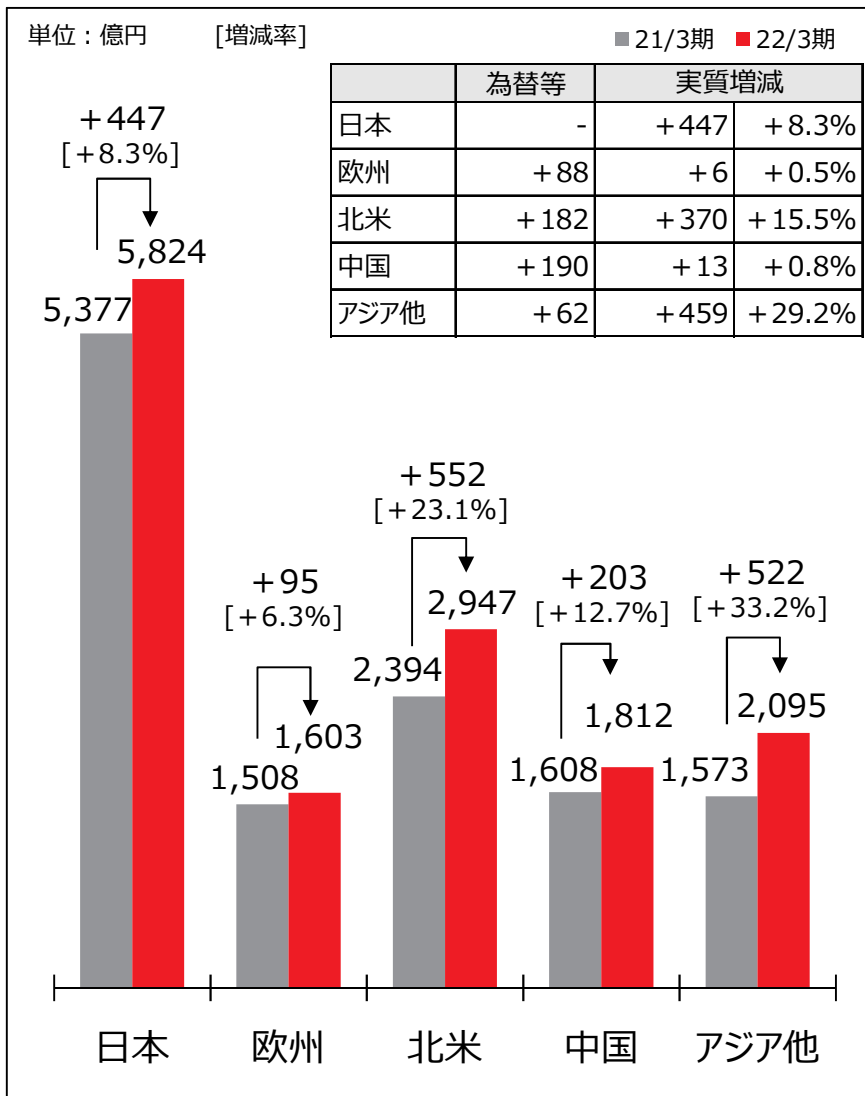
単位：億円



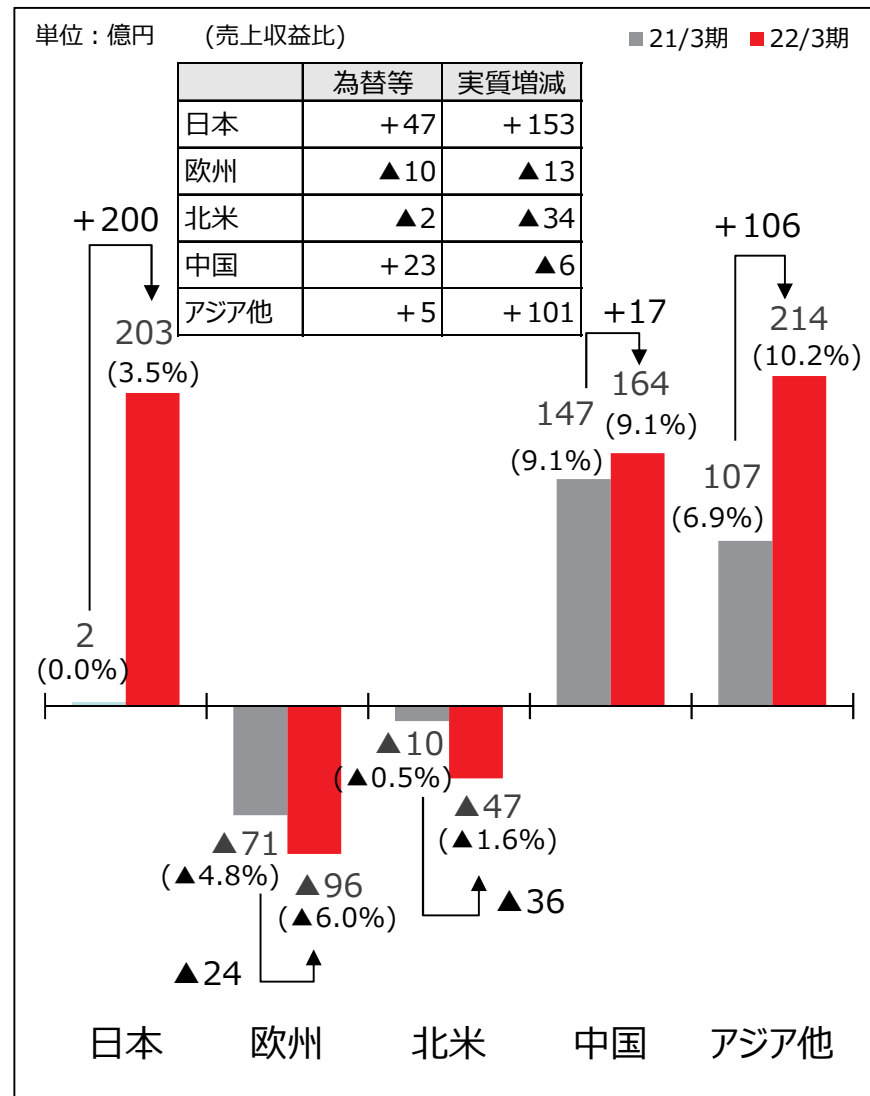
1-3) 実績 - 所在地別業績



売上収益



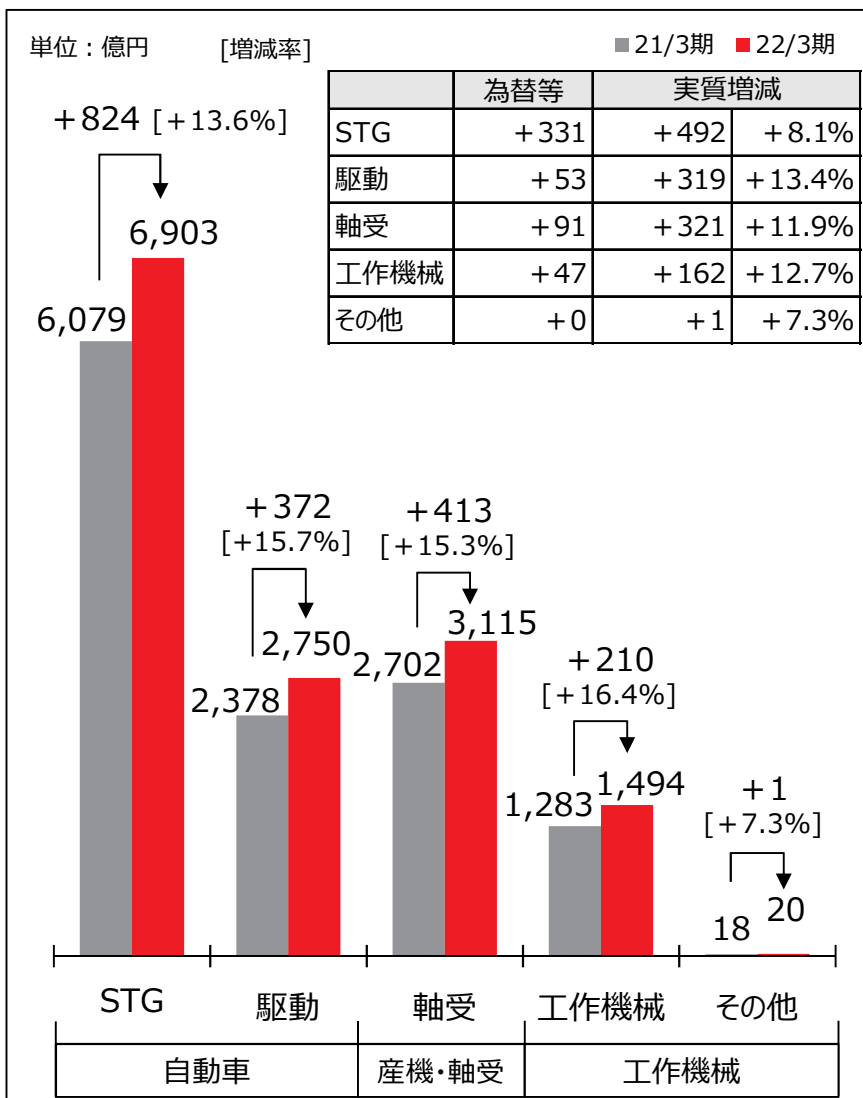
事業利益



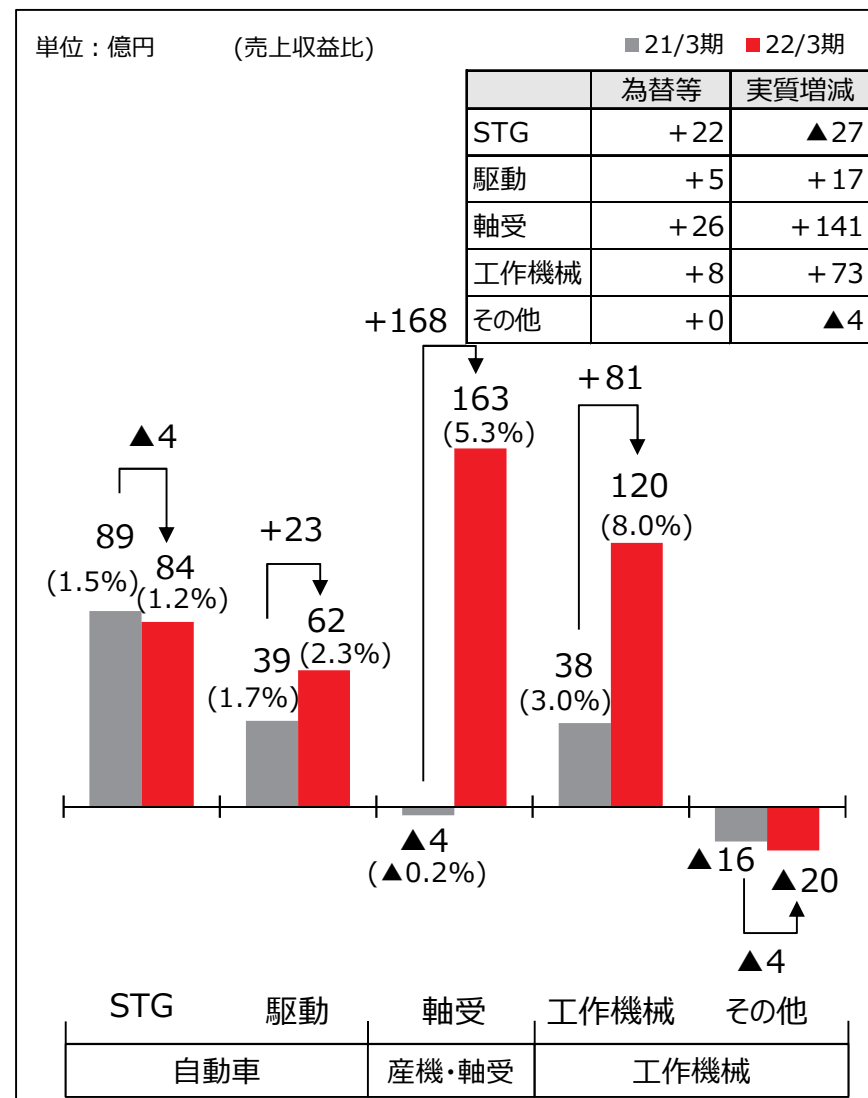
1-4) 実績 - 事業別業績



売上収益



事業利益



I. 決算

1. 2022年3月期 実績
2. 2023年3月期 業績予想

II. 中期経営計画の達成に向けた取り組み

1. 2021年度 中期経営計画
2. 2021年度 振り返り
3. 2022年度 重点取組み

参考資料

2-1) 予想－連結損益

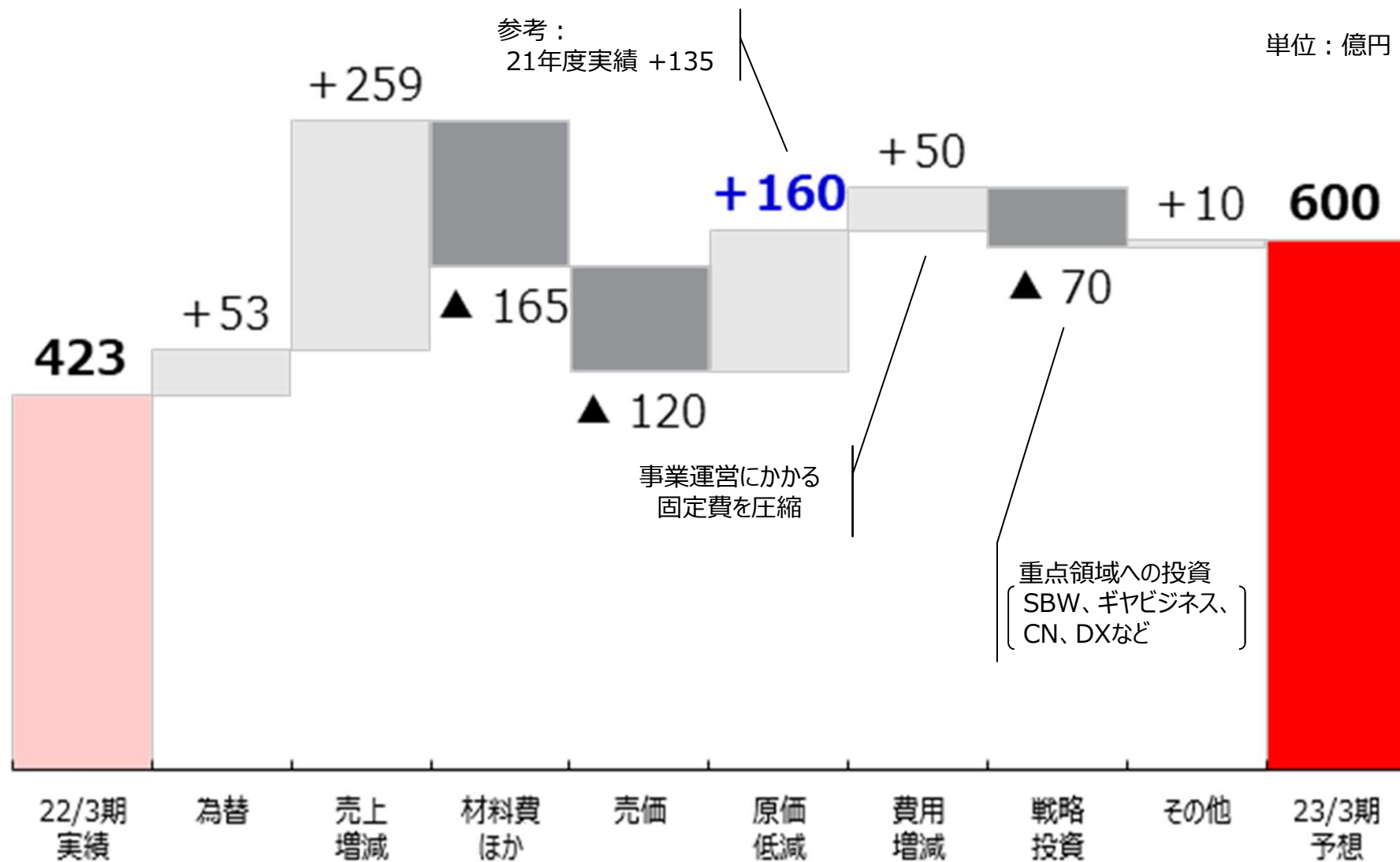
新型コロナや半導体不足、材料費・物流費の増加等、外部環境の見通しは不透明。外部環境リスクを一定程度織り込むが、将来に向けた戦略投資を実施しながら更なる原価低減や固定費抑制による体質改善に取り組み、増収増益の見通し。

	22/3期 実績		23/3期 予想		増減額	増減率
売上収益		14,284		16,000	+1,715	+12.0%
事業利益 ※1	(3.0%)	423	(3.8%)	600	+176	+41.7%
営業利益	(2.5%)	364	(3.4%)	540	+175	+48.3%
税引前利益	(3.1%)	439	(3.0%)	485	+45	+10.4%
当期利益 ※2	(1.4%)	206	(1.6%)	250	+43	+20.9%
為替レート USD		112.38円		115.00円	2.62円 円安	
為替レート EUR		130.56円		130.00円	0.56円 円高	
1株当たり当期利益		60円31銭		72円89銭		

(※1) 「売上収益」から「売上原価」と「販売費および一般管理費」を控除した当社独自の管理利益

(※2) 親会社の所有者に帰属する当期利益

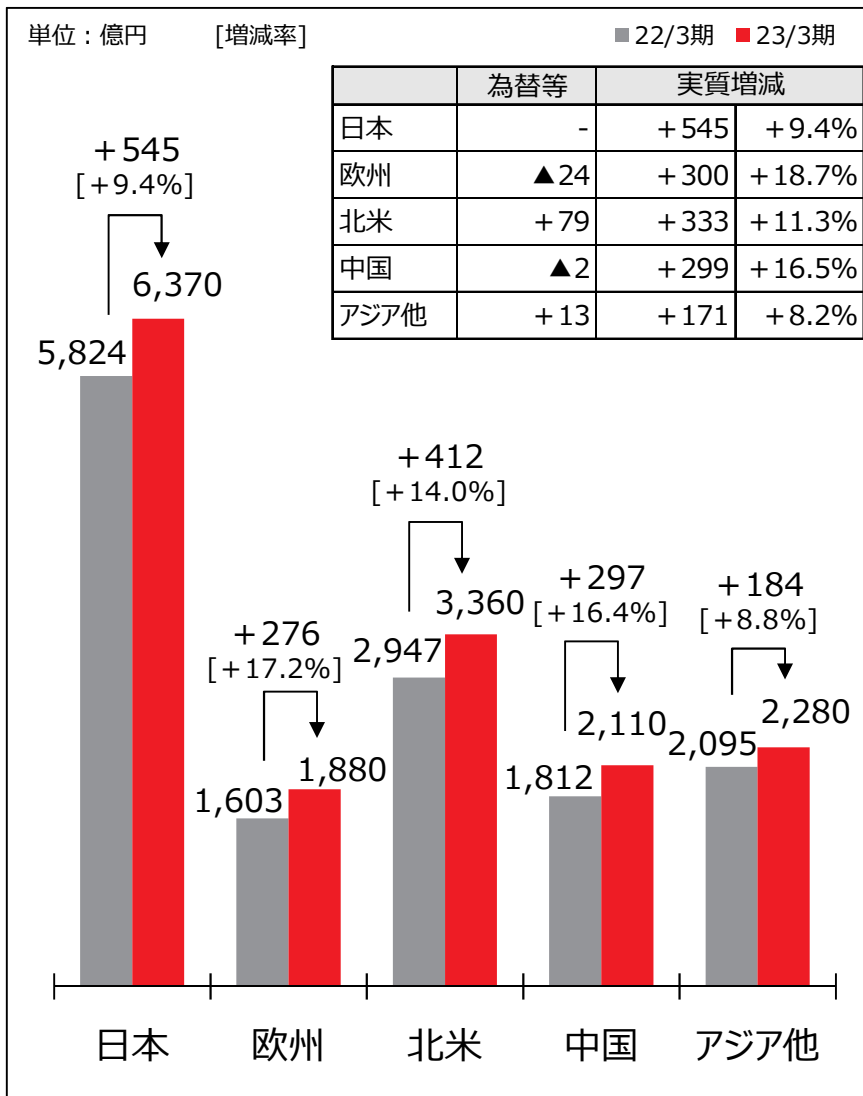
2-2) 予想 - 事業利益増減分析



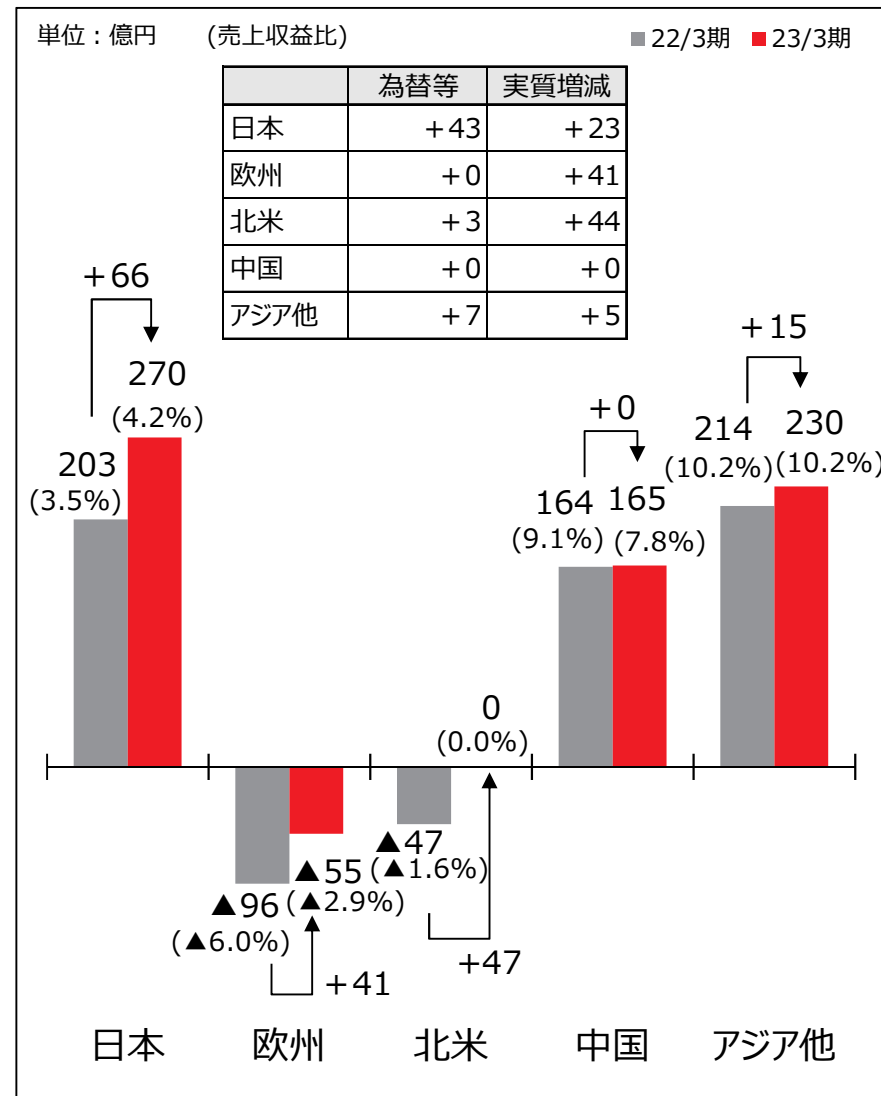
2-3) 予想 – 所在地別業績



売上収益



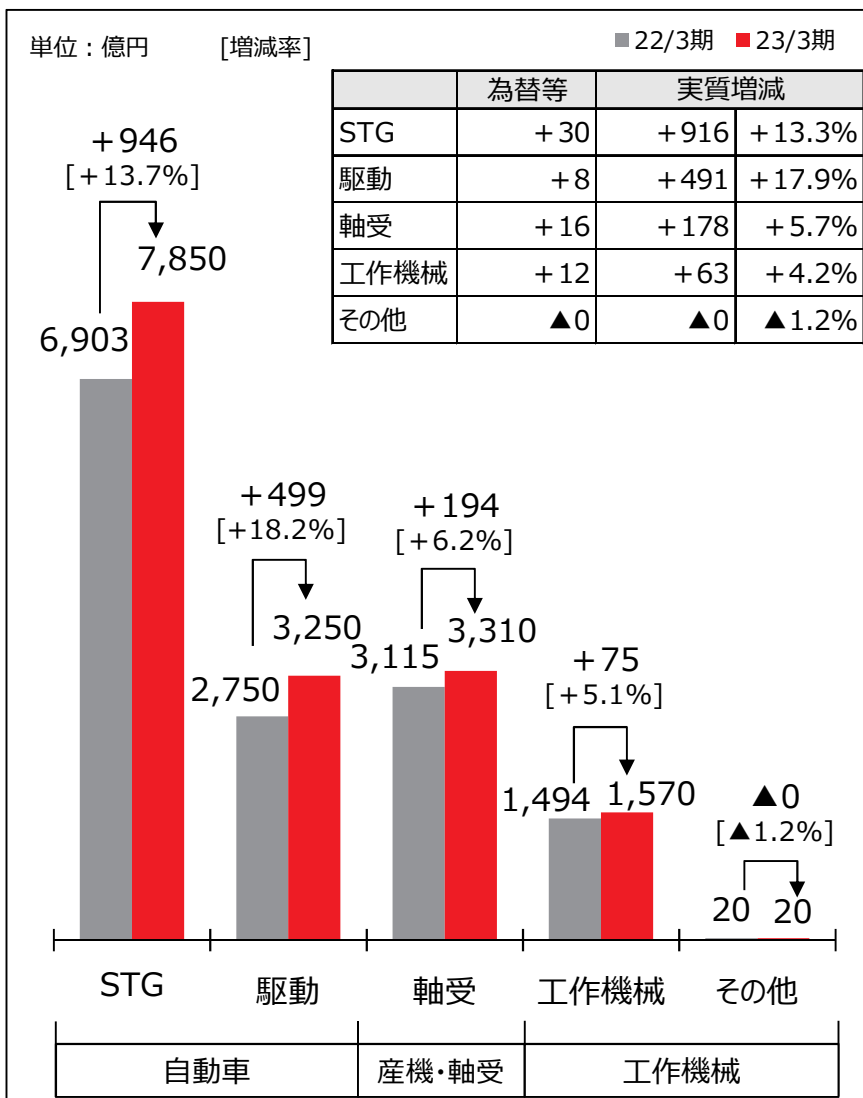
事業利益



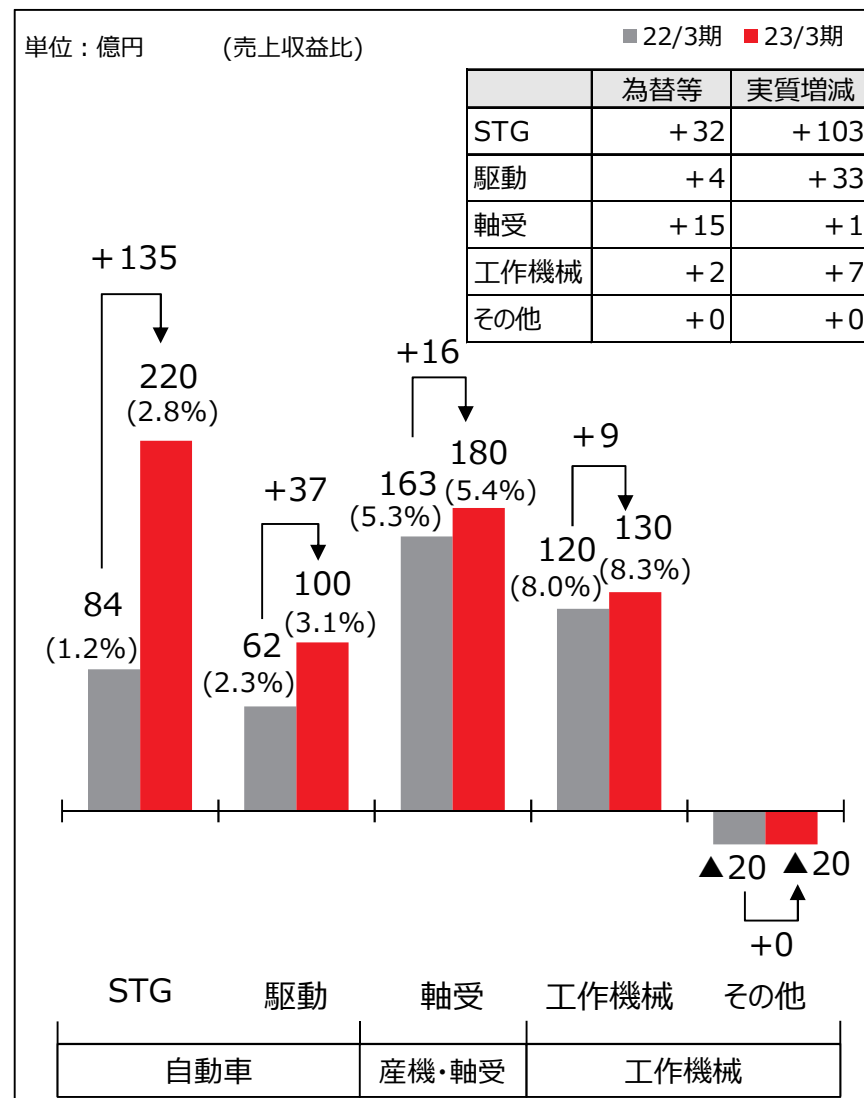
2-4) 予想 - 事業別業績



売上収益



事業利益



I. 決算

1. 2022年3月期 実績
2. 2023年3月期 業績予想

II. 中期経営計画の達成に向けた取り組み

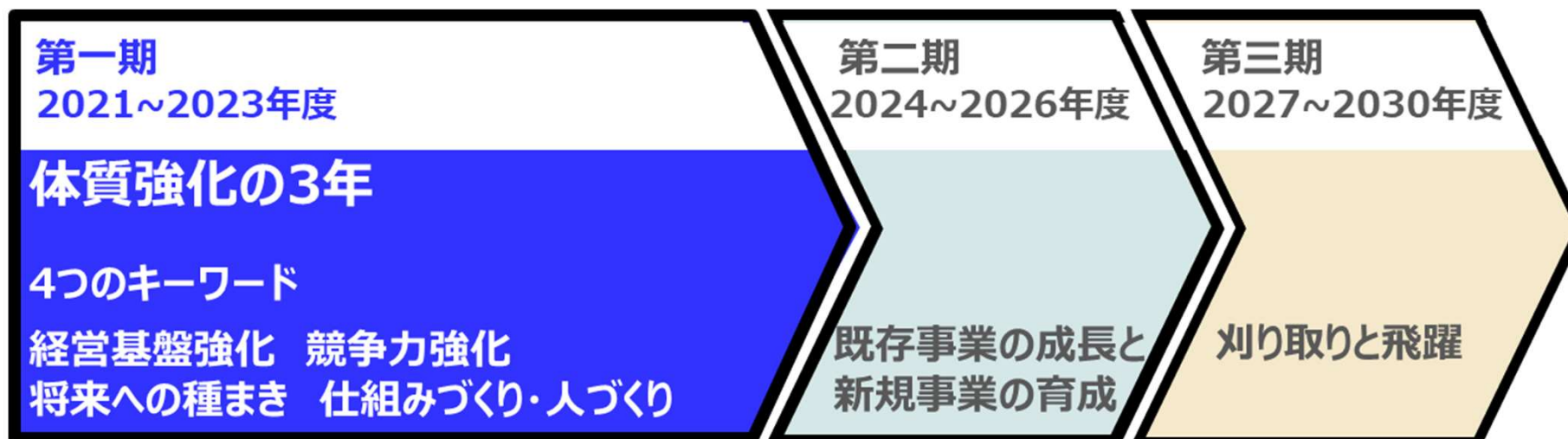
1. 2021年度 中期経営計画
2. 2021年度 振り返り
3. 2022年度 重点取組み

参考資料

1. 2021年度 中期経営計画



- 2021年5月、**長期・中期経営計画を公表**
- 2030年までの10年を3期に分割、**第一期中計期間を「体質強化の3年」とし、損益分岐点売上比率(19年度売上比)80%、事業利益1,000億円の目標設定**



	2021年度	2022年度	2023年度
損益分岐点 2019年度比	85%	83%	80%

2023年度 事業利益1,000億円を目指す

I. 決算

1. 2022年3月期 実績
2. 2023年3月期 業績予想

II. 中期経営計画の達成に向けた取り組み

1. 2021年度 中期経営計画
2. 2021年度 振り返り
3. 2022年度 重点取組み

参考資料

2. 2021年度 重点取組み項目

■ 「体質強化の3年」の1年目、「ジェイテクトReborn元年」として以下を推進

(1) 経営基盤強化

損益分岐点改善
欧州、北米構造改革
ブランド統一

(2) 競争力強化

一般市場向け研削盤シリーズ販売開始

(3) 将来への種まき

ギヤビジネス本格始動

(4) 人づくり、
仕組みづくり

ジェイテクトの基本理念の浸透

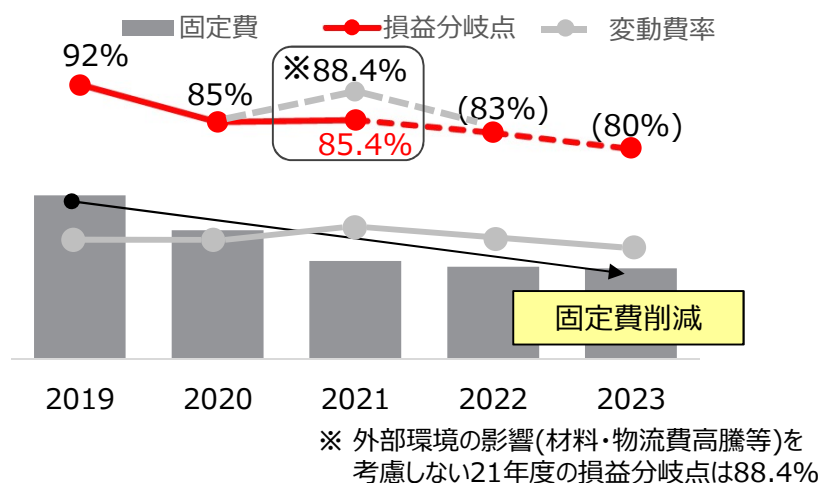
2-1) 経営基盤強化

■ グループ全体で「損益分岐点売上比率(19年度売上比)」にこだわった経営を行い、**目標の85%を概ね達成**(外部環境の影響を除く)

損益分岐点改善

- 固定費削減は計画どおり進捗
 - 材料・物流費高騰等の逆風から変動費率の改善は停滞
- ⇒ **更なる原価低減の推進**

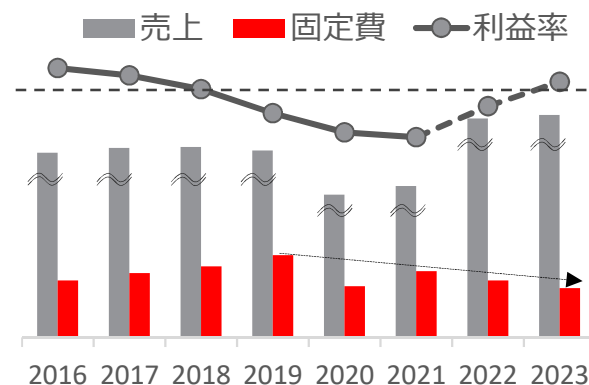
損益分岐点 (19年度売上比) の状況



構造改革

【欧州】

- 23年度黒字化に向けて**計画通り進捗**
- 事業統合・売却等により、**固定費を130億円以上削減** (19年度比)



【北米】

- 外部環境要因もあり生産性悪化
- ⇒ 本社からの人員派遣により巻き返し
- ⇒ **22年度黒字化を目指す**

2-1) 経営基盤強化



- 2022年1月に「ブランド統一」を発表、4月1日に全ての事業ブランドをJTEKTに統一

ブランド統一の目的

- ① お客様のご期待に応えられていなかった旧ブランドの不足部分の解消
- ② 事業/グループ間の壁を取り払い、仕事の進め方を整備、連携を強化

	従前	ブランド統一
コーポレート	JTEKT	JTEKT
自動車事業	JTEKT	
産機・軸受事業	Koyo	
工作機械・システム事業	TOYODA Koyo	
新規事業など	JTEKT	

ブランド統一はReborn加速のスタート地点

ワンブランドの下、グループで協力・共創

ONE! JTEKT



- JTEKTブランド第一弾として、良質廉価な円筒研削盤の新シリーズを2022年4月1日より販売開始
- EV化により縮小するエンジン市場から一般市場向けにターゲットを拡大

良質廉価の実現

- ユニットの標準化やデジタルツインを用いた開発・評価によりコストを低減
- 「性能は良いが高価」というこれまでのTOYODAブランドのイメージを払拭
- 同様のコンセプトのマシニングセンタ新シリーズも展開

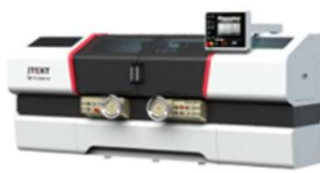
価格を削れ、品質は削るな。

JTEKT 新シリーズ発売！

精度、仕様など必要なスペックを組み合わせ使用可能。
TOYODA時代から受け継がれるNo.1品質で、あなたの良品廉価なものづくりに貢献いたします。



小型研削盤シリーズ



中型研削盤シリーズ



大型研削盤シリーズ



横型マシニングセンタ
FH-5000シリーズ

- グループ内の技術・ノウハウを融合し、**ギヤビジネスを本格始動**
- No.1 & Only Oneのギヤで、ロボットやe-Axle等の成長市場に貢献

ギヤビジネス本格始動

- 2021年11月 Gear Innovation Center 開設
 - ⇒ **総合ギヤビルダー**としてギヤビジネスを深化
 - ⇒ 超短納期でお客様に試作を提供
- **短期間でのビジネス立ち上げ**
 - ⇒ 産業用ロボット市場からの引き合い多数
商談も獲得

「ものづくり」の強みを活かし、
他社には追従できない
No.1 & Only Oneの価値を提供

ジェイテクトの強み

工作機械 + 製品：2つのノウハウの活用



素材から完成品まで
最適な**一貫工程**の提案



歯面加工技術を活用した
歯車の低騒音・高回転・
小型化の実現



歯車・軸受の
シミュレーション解析
技術を活用した
構造最適化



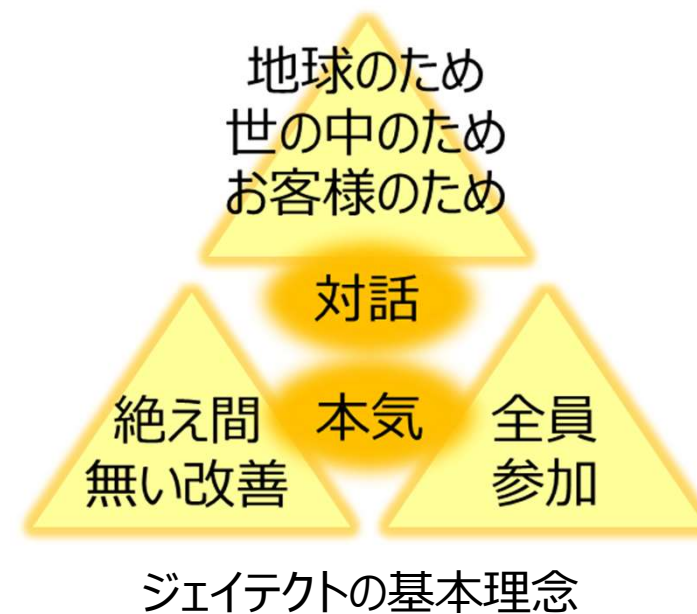
- 「地球、世の中、お客様」への貢献を、**全員が本気で考え実行できるように**なれば、**誰にも負けない強い企業**になる
- 求める人材像として、「**ジェイテクトの基本理念**」の浸透を図る

ジェイテクトの基本理念の浸透

- 公募制度を用いてTQM推進部のメンバーを募集
⇒ **新生TQM推進部発足**（社長直轄組織）
- 2021年11月の「品質月間」から本格始動
- 本気と対話の両輪で
「～したい、～してあげたい」を実現する

活動は始まったばかり・・・

2022年度ジェイテクトグループ方針の「最重要取組事項」とし、
言いたいことが言える、やりたいことができる企業グループへ変革



I. 決算

1. 2022年3月期 実績
2. 2023年3月期 業績予想

II. 中期経営計画の達成に向けた取り組み

1. 2021年度 中期経営計画
2. 2021年度 振り返り
3. 2022年度 重点取組み

参考資料

3. 2022年度 重点取組み項目

■ 「体質強化の3年」の2年目、引き続き「ジェイテクトReborn」に取り組む

(1) 人づくり、 仕組みづくり	言いたいことが言える、やりたいことができる会社へ
(2) 競争力強化	ジェイテクトグループ改革 事業間シナジーの創出
(3) 将来への種まき	新ビジネス、自動運転対応 投資戦略 システムサプライヤーの取組み
(4) 経営基盤強化	カーボンニュートラル(CN) デジタルトランスフォーメーション(DX)
(5) ESGの取組み	環境取組み 社会貢献 取締役会見直し

3-1) 人づくり、仕組みづくり

- 社員の挑戦を認め、「言いたいことが言える、やりたいことができる」
自由闊達な会社を目指す

やりたいことができる
人づくり

能力

- 入社4年目までの
問題解決力形成
- 現場に合わせた
実践教育

自律

- 主体的なキャリア
形成を促す
公募制度の導入

Education + Training

自由にできる
仕組みづくり

人を育てる風土

- **挑戦**を認める
- **失敗**を許容する



明るく楽しい
雰囲気

- 「た・い・わ」活動
た… タウンミーティング
い… いいね!
わ… 笑う・笑顔
- 職場活力を計る
社内サーベイ

入社式の様子

2022年4月1日

ウイングアリーナ刈谷

3-2) 競争力強化

■ 真のOne JTEKTを実現し、**グループシーズの活用、事業間シナジー**でお客様の「うれしさ」を創造

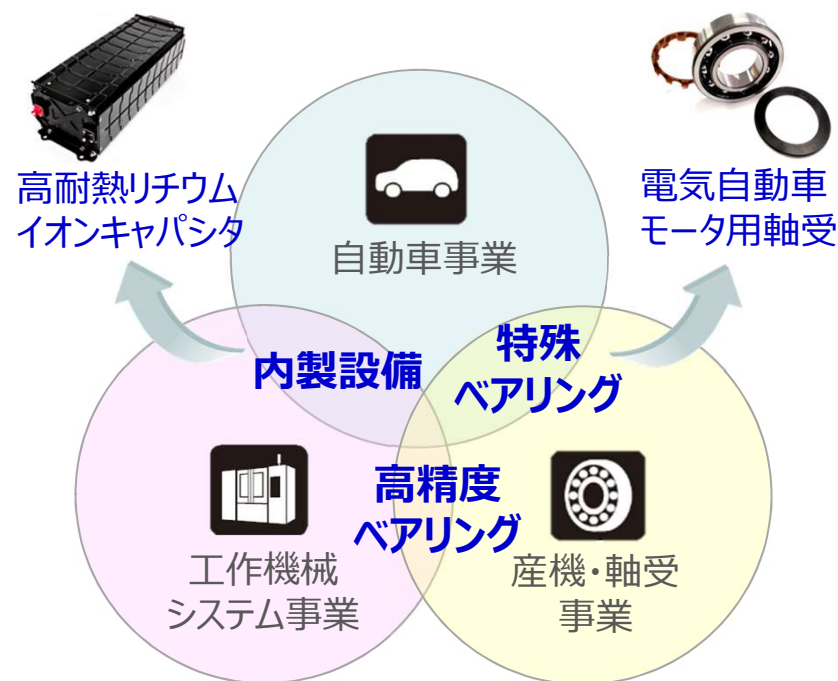
ジェイテクトグループ改革

- グループ内連携を強化
- 技術、モノづくりのノウハウ・強みを共有し **新たな価値を創造**



事業間シナジーの創出

- **当社にしか発揮できないシナジー**で良質廉価を実現



3-3) 将来への種まき

- 新ビジネス、自動運転対応など**新規・先行領域への投資を強化**
- 既存領域の**競争力強化**に向けた投資も拡充

新ビジネス、自動運転対応

コオロギの食糧資源化

既存領域で培った自動化技術、データ・品質管理技術を基盤とした飼育・加工一貫プラントにより安心・安全・高品質なタンパク質の生産へ



自動運転対応

- ステア・バイ・ワイヤシステムの補助電源として高耐熱リチウムイオンキャパシタを搭載高出力化を可能とし、自動運転適応車両の拡大に貢献
- また、ハードウェア完全二重構造を備えたJFOPS4*により全ての自動運転レベルに対応

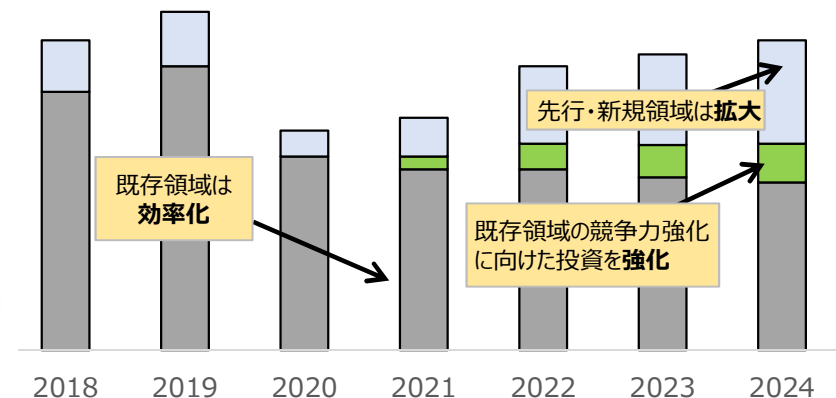


* JTEKT Fail-Operational System

投資戦略

- 既存領域への投資は効率化しながら競争力強化のための投資を強化
- カーボンニュートラルやDXに向けた戦略投資枠も確保
- 2022年度より積極投資へシフト

■ 既存領域 ■ 既存領域 (競争力強化) □ 先行・新規領域

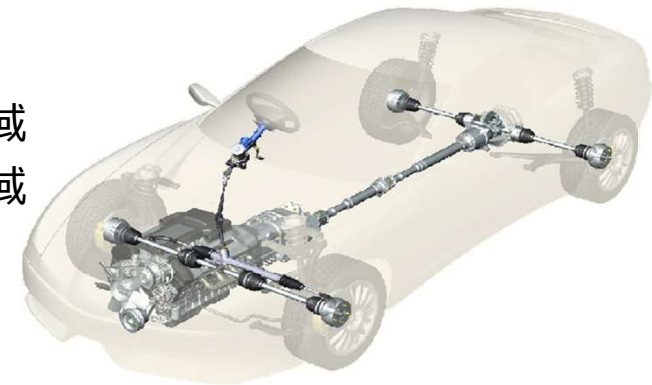
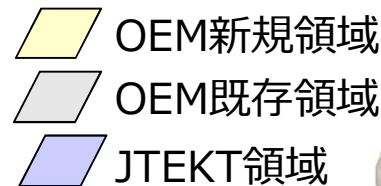


3-3) 将来への種まき

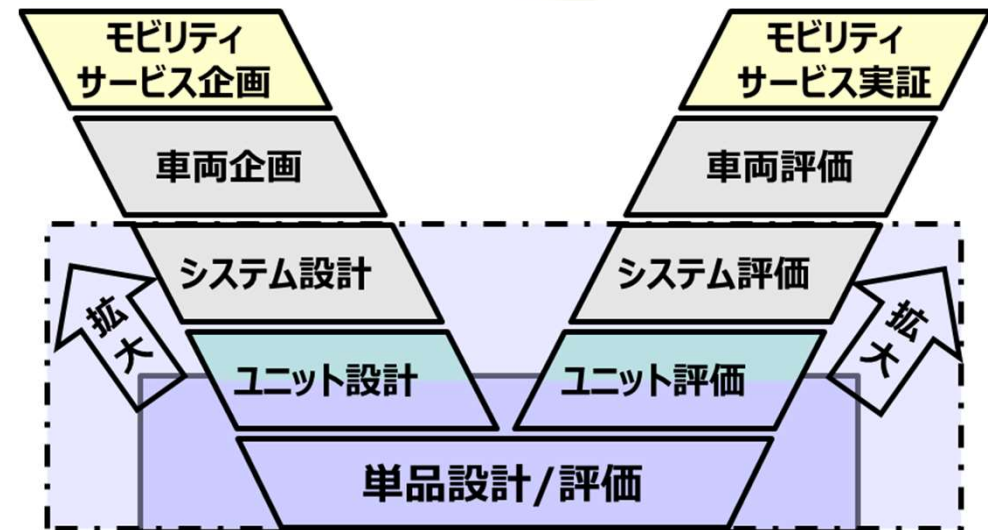
- 完成車メーカーが担ってきた駆動・シャシーの領域を一括で任せられる **システムサプライヤーを目指す**
- **システム最適**で低騒音・高効率・低コストの**良質廉価を実現**

システムサプライヤーへの取り組み

- CASE/BEV時代に向けOEMは新領域への対応が必要
⇒ 既存から新規領域へのシフトが進む
- グループシーズ、要素技術を活かし **シャシー領域をシステム最適化**
- OEMから「走る、曲がる」を任せられるシステムサプライヤーへ



ONE! JTEKT

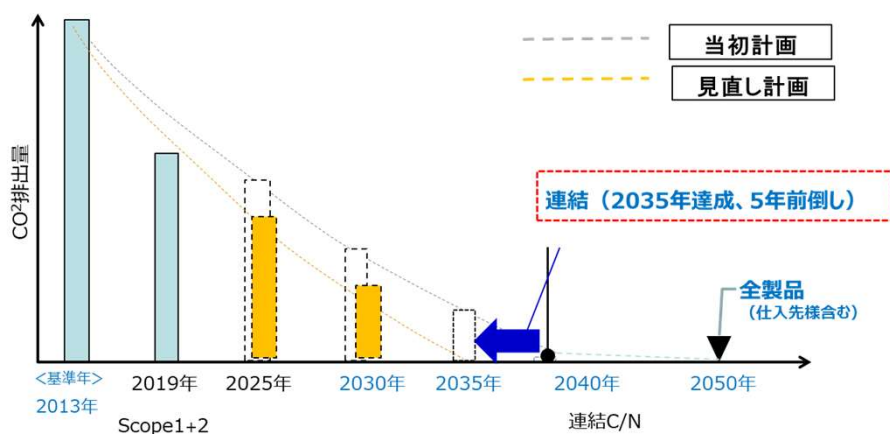


3-4) 経営基盤強化

- 2021年8月に「カーボンニュートラル戦略室」と「DX推進室」を新設
- CN：オールジェイテクトのCN達成時期を5年前倒し
- DX：「2030年のありたい姿」に向けたロードマップを策定 ⇒ 実行フェーズへ

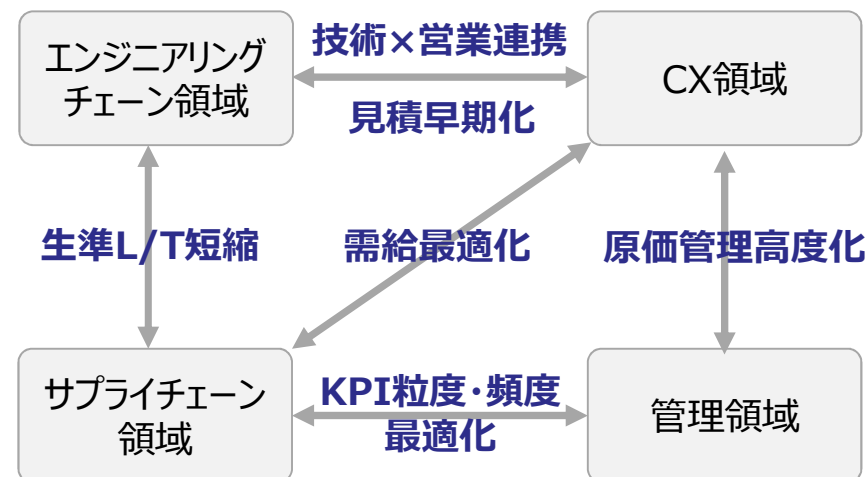
カーボンニュートラル

- グローバル(Scope1+2)でのCN達成時期を2040年から**2035年に前倒し**
- 2050年に全製品(Scope3)のCN達成を目指す（変更なし）



デジタルトランスフォーメーション

- 各社、各事業で個別最適的に進めてきたデジタル化を**グループ全体最適視点で点検**
- 課題に優先順位を付け、ロードマップを策定 並行して必要な標準化を実行



3-5) ESGの取組み

- 地球、世の中、お客様に貢献し、**年輪成長**を遂げる**サステナブルな企業グループ**に変革するため、**ESGに積極的に取組む**

Environment

- 2050年の全製品(Scope3)**CN達成に向けたサプライヤーとの協働活動**や、製品における**環境負荷低減の取組み**などについて高い評価を受ける

CDP2021サプライヤー・エンゲージメント評価において
サプライヤー・エンゲージメント・リーダー(最高評価)に選定

環境省主催の、ESGファイナンス・アワード・ジャパン
環境サステナブル企業部門において特別賞受賞

「2022愛知環境賞」において金賞(最高賞)受賞



Social

- 2021年10月インド・ハリヤナ州
JTEKT INDIAに**企業内職業訓練校**
JTEKT-JIM開校
- 経済産業省より
「日本式ものづくり学校」
の認定を受ける



Governance

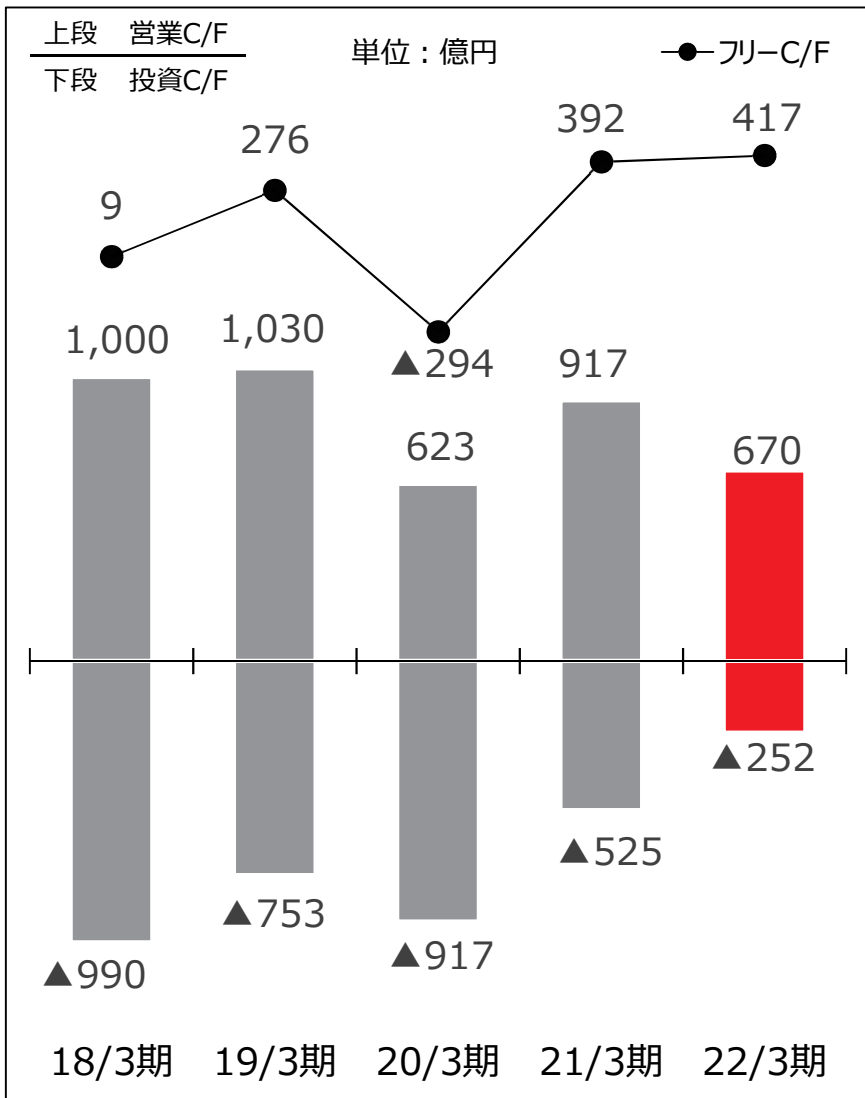
- 2022年6月開催の株主総会で、
取締役数を削減(9名→6名)
半数を社外取締役とする
- 「人的資本」、「知的資本」への投資等について社外役員を交えて議論を行い、
持続的な成長に繋げる

1. 経営指標
2. 財務諸表
3. 業績推移
4. 事業利益増減分析
5. 配当推移

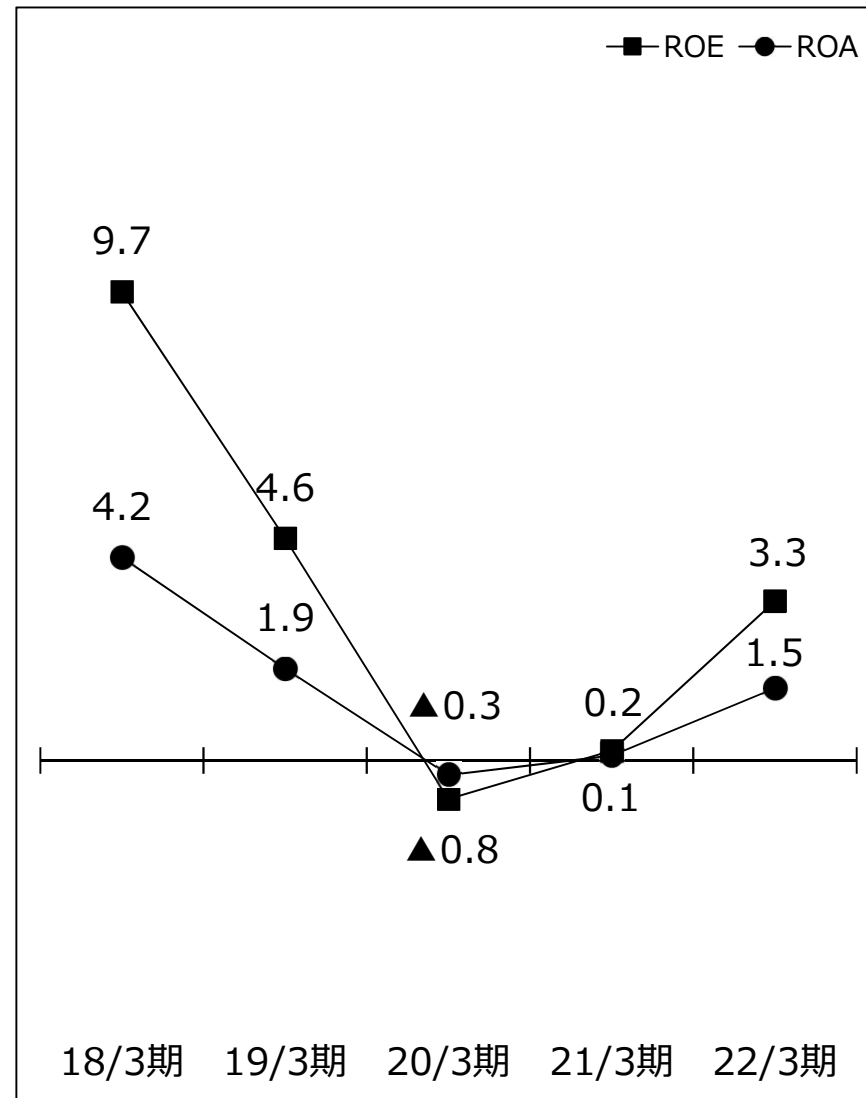
1-1) 経営指標 - キャッシュ・フロー / ROE・ROA



キャッシュ・フロー



ROE・ROA

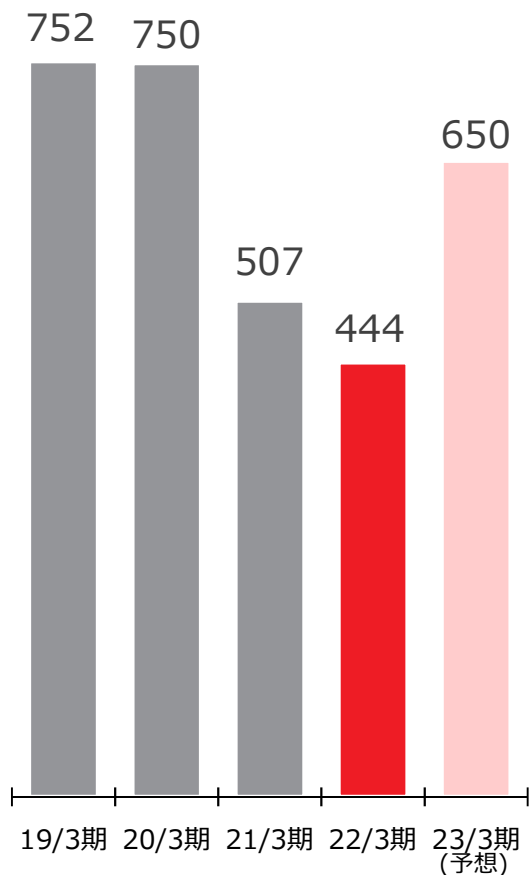


1-2) 経営指標 – 設備投資 / 減価償却費 / 研究開発費



設備投資

単位：億円



減価償却費

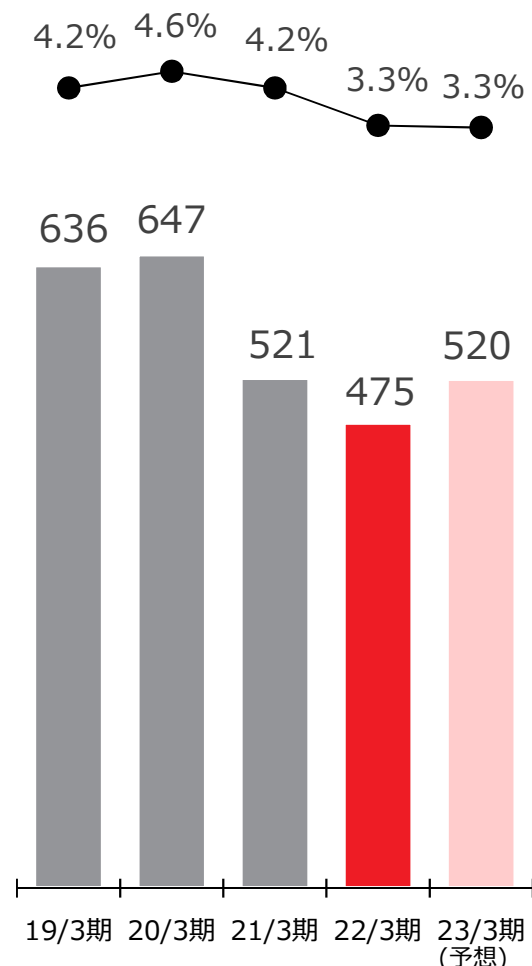
単位：億円



研究開発費

単位：億円

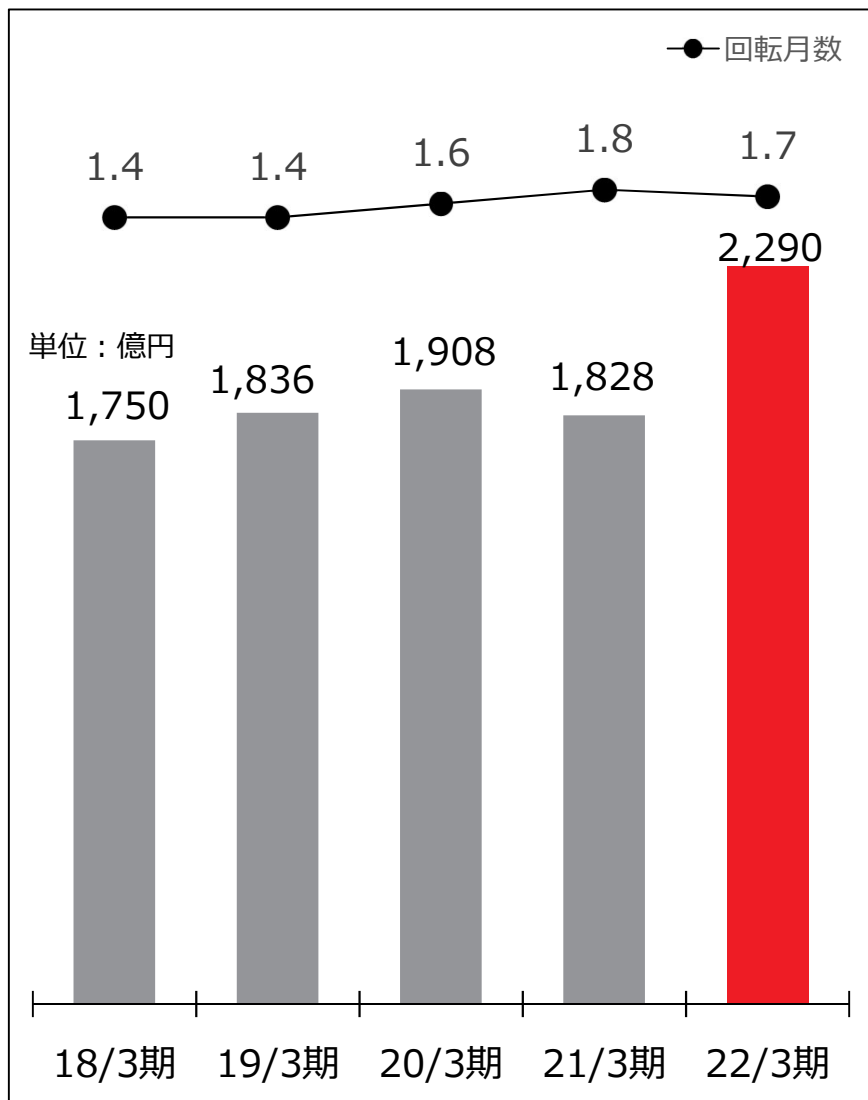
● 売上収益比



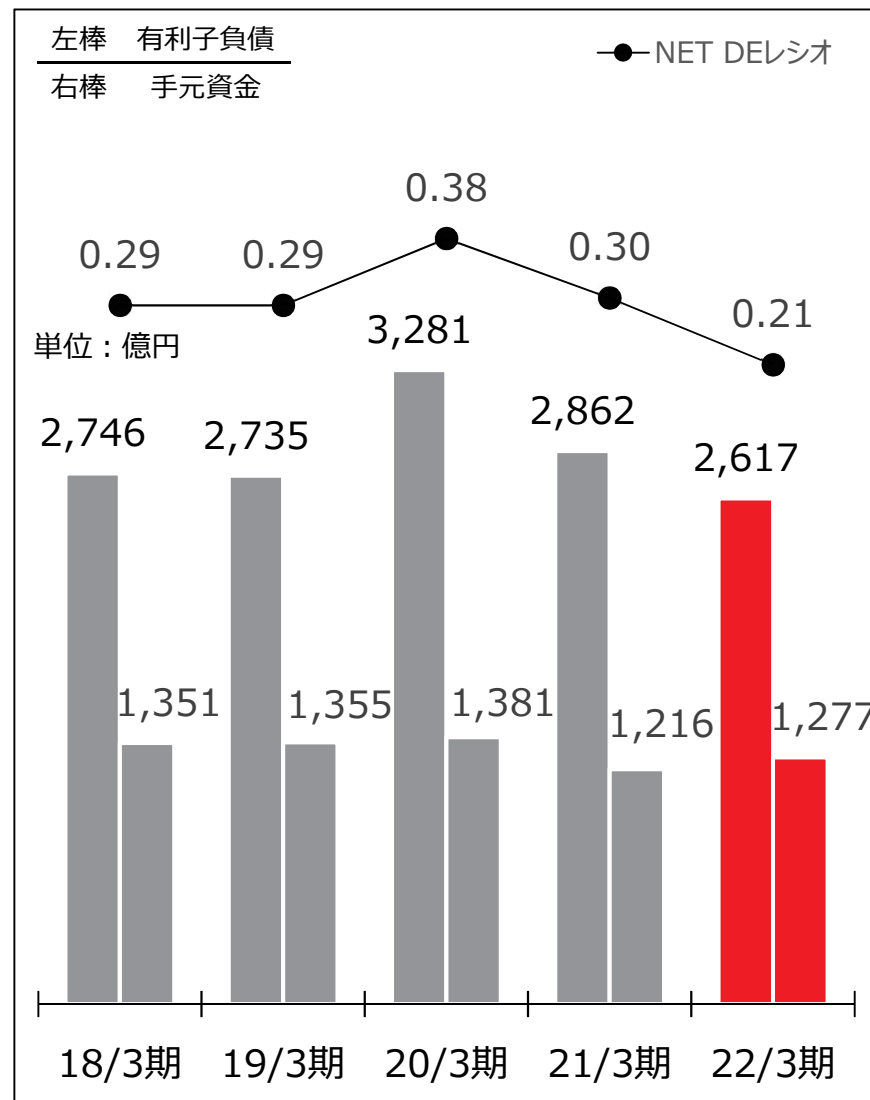
1-3) 経営指標 – 棚卸資産 / 有利子負債・手元資金



棚卸資産



有利子負債・手元資金



2-1) 財務諸表 – 連結財政状態計算書



資産

単位：億円

資産	21/3期	22/3期	増減額
現金及び 現金同等物	1,186	1,242	+56
営業債権及び その他の債権	2,905	3,190	+285
棚卸資産	1,828	2,290	+462
その他 流動資産	85	130	+45
有形固定資産	4,633	4,600	▲ 33
その他 非流動資産	2,273	2,409	+136
資産合計	12,913	13,864	+951

負債・資本

単位：億円

負債・資本	21/3期	22/3期	増減額
営業債務及び その他の債務	2,866	3,176	+310
有利子負債	2,862	2,617	▲ 244
その他 流動負債	188	313	+125
その他 非流動負債	1,145	1,152	+7
自己資本	5,509	6,240	+731
非支配 株主持分	341	364	+22
負債・資本合計	12,913	13,864	+951

2-2) 財務諸表 – 連結損益計算書 / 連結キャッシュ・フロー計算書



連結損益計算書

単位：億円

	21/3期	22/3期	増減額
売上収益	12,462	14,284	+1,821
事業利益	159	423	+264
その他 収益・費用	▲ 29	▲ 59	▲ 29
金融収益 ・費用等	24	75	+51
法人所得税 費用	▲ 121	▲ 203	▲ 81
非支配持分	▲ 24	▲ 29	▲ 5
親会社の所有者に 帰属する当期利益	8	206	+198

連結キャッシュ・フロー計算書

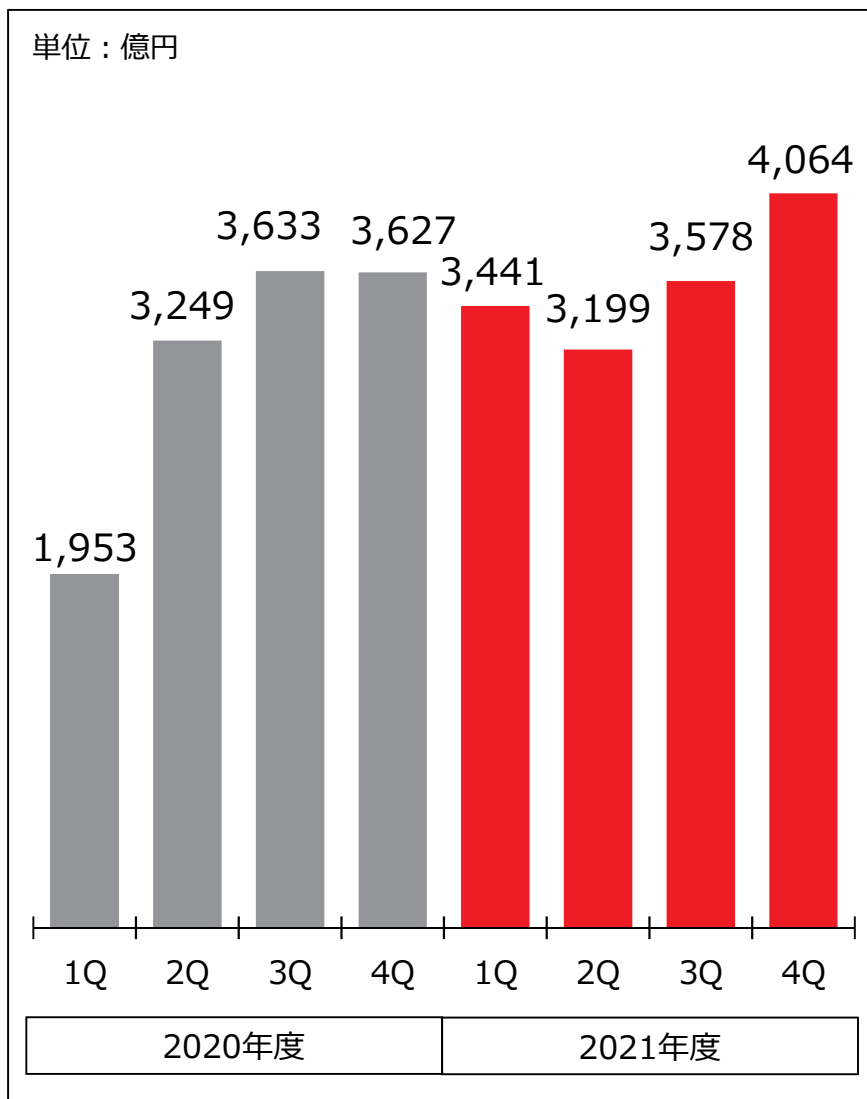
単位：億円

	21/3期	22/3期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	917	670	▲ 247
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 525	▲ 252	+272
フリー キャッシュ・フロー	392	417	+25
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 579	▲ 435	+144
為替換算 差額等	25	75	+50
現金及び現金 同等物の増減額	▲ 161	58	+220
現金及び現金 同等物の残高	1,186	1,242	+56

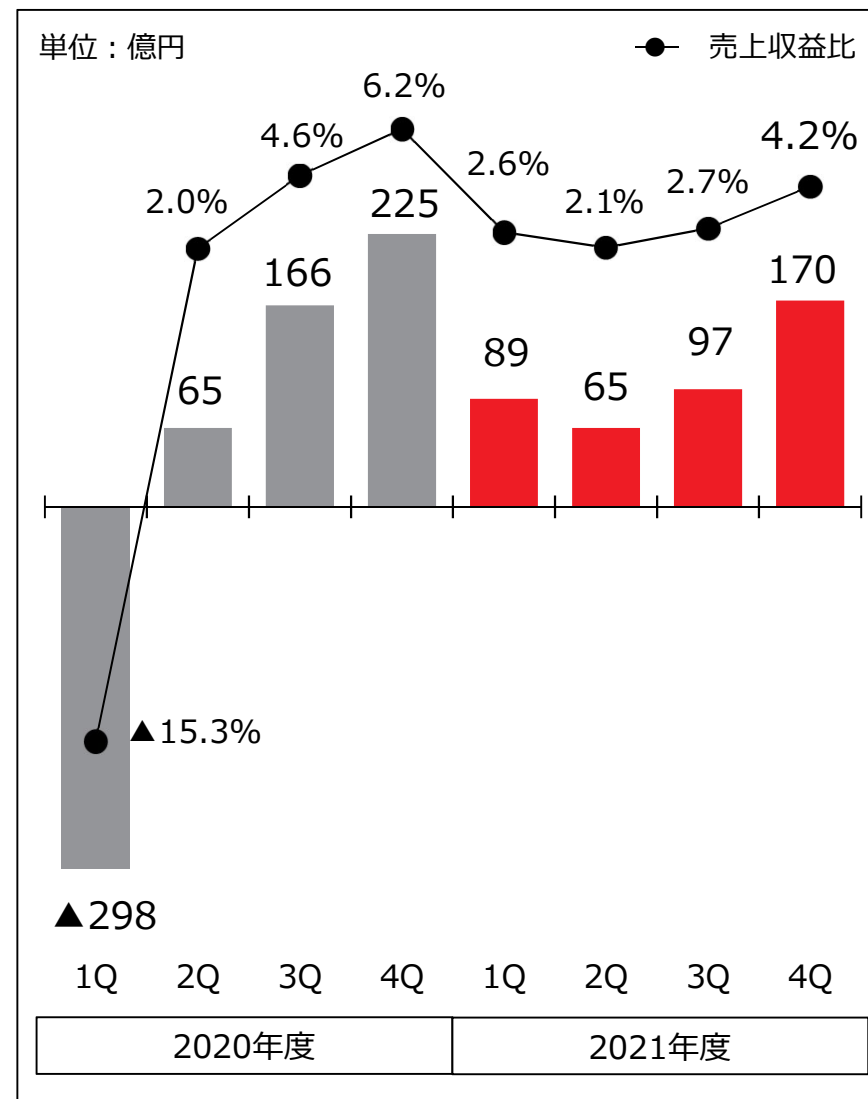
3-1) 業績推移



売上収益



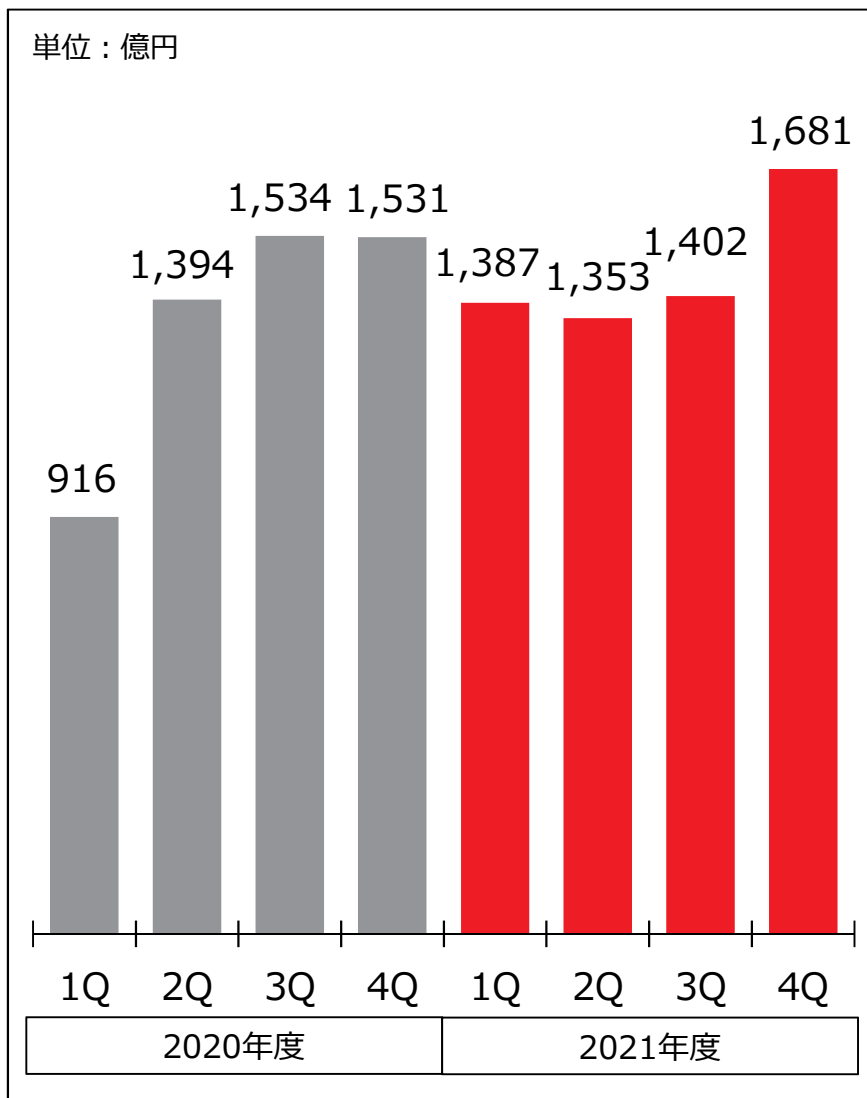
事業利益



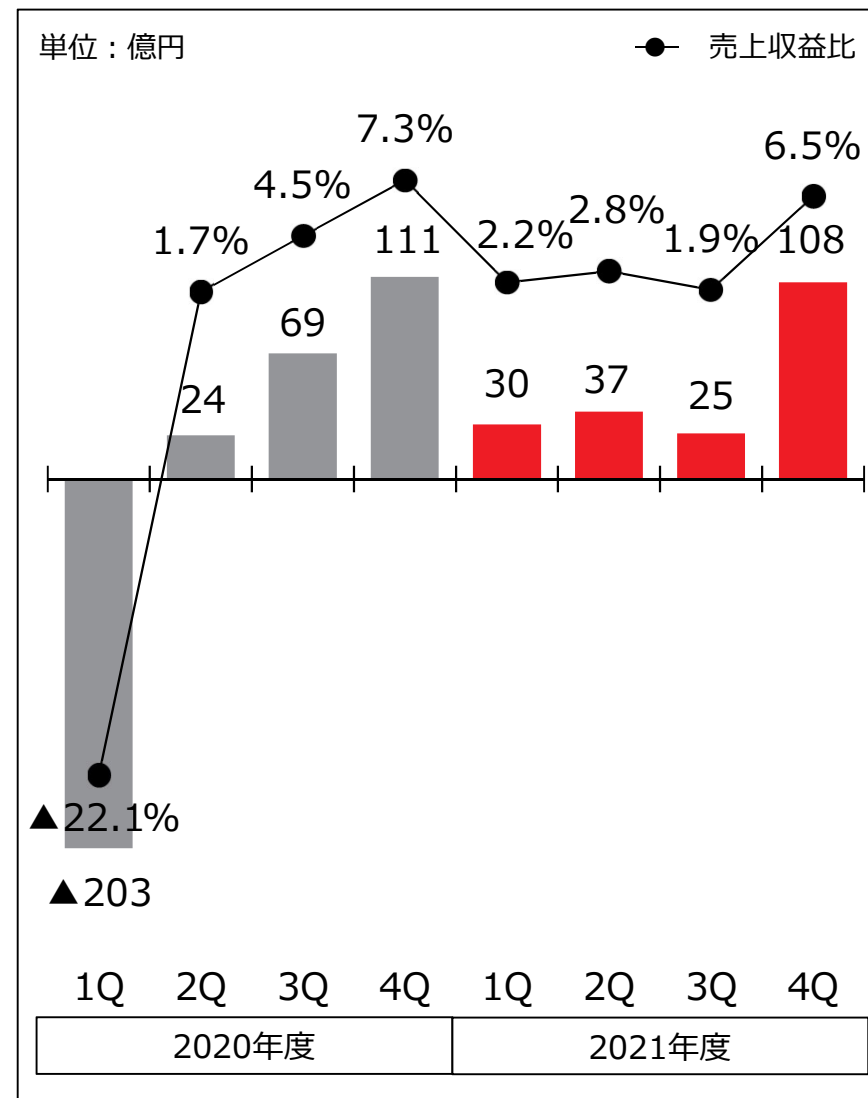
3-2) 業績推移 – 日本



売上収益



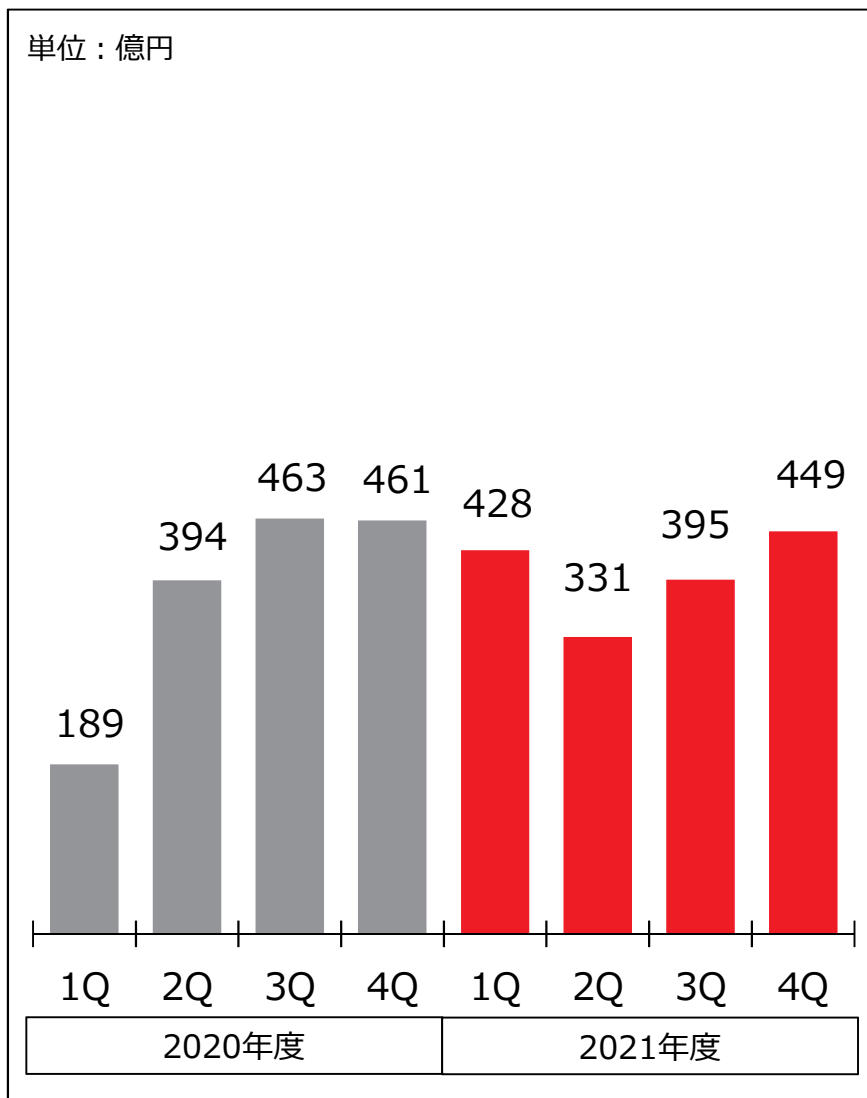
事業利益



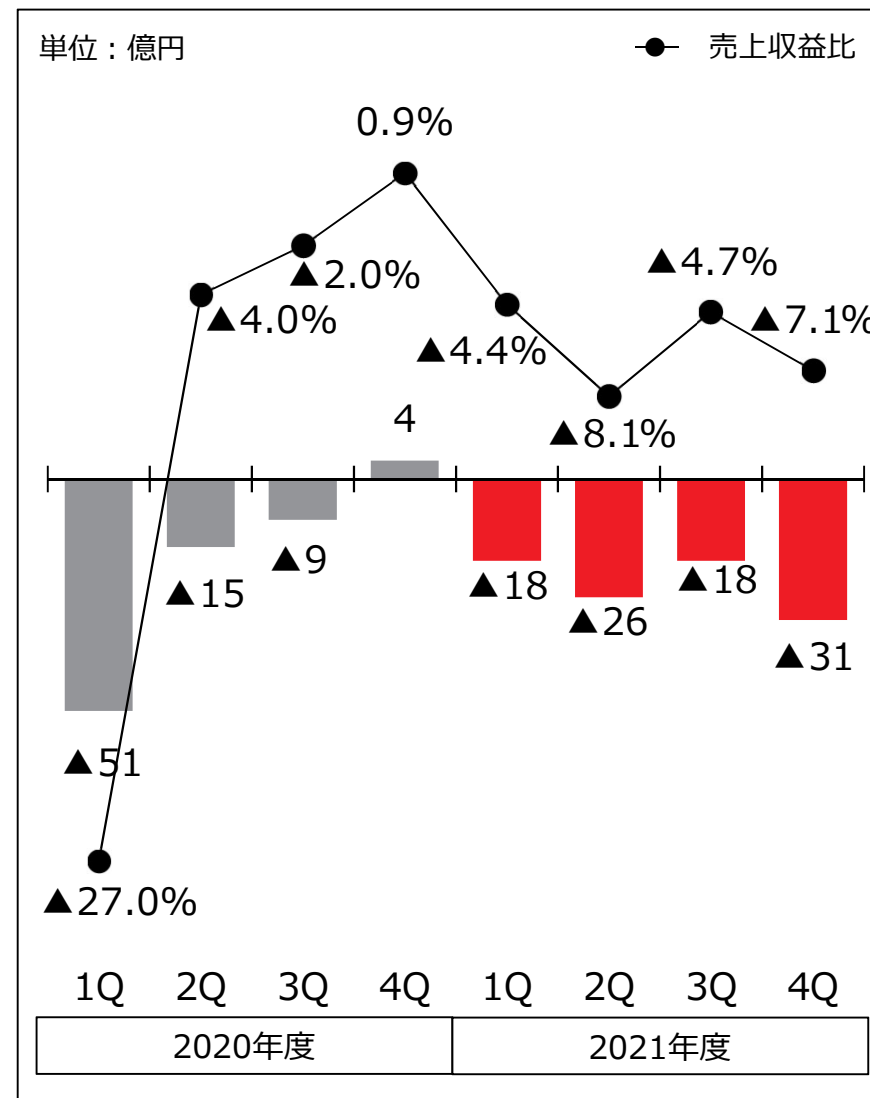
3-3) 業績推移－欧州



売上収益



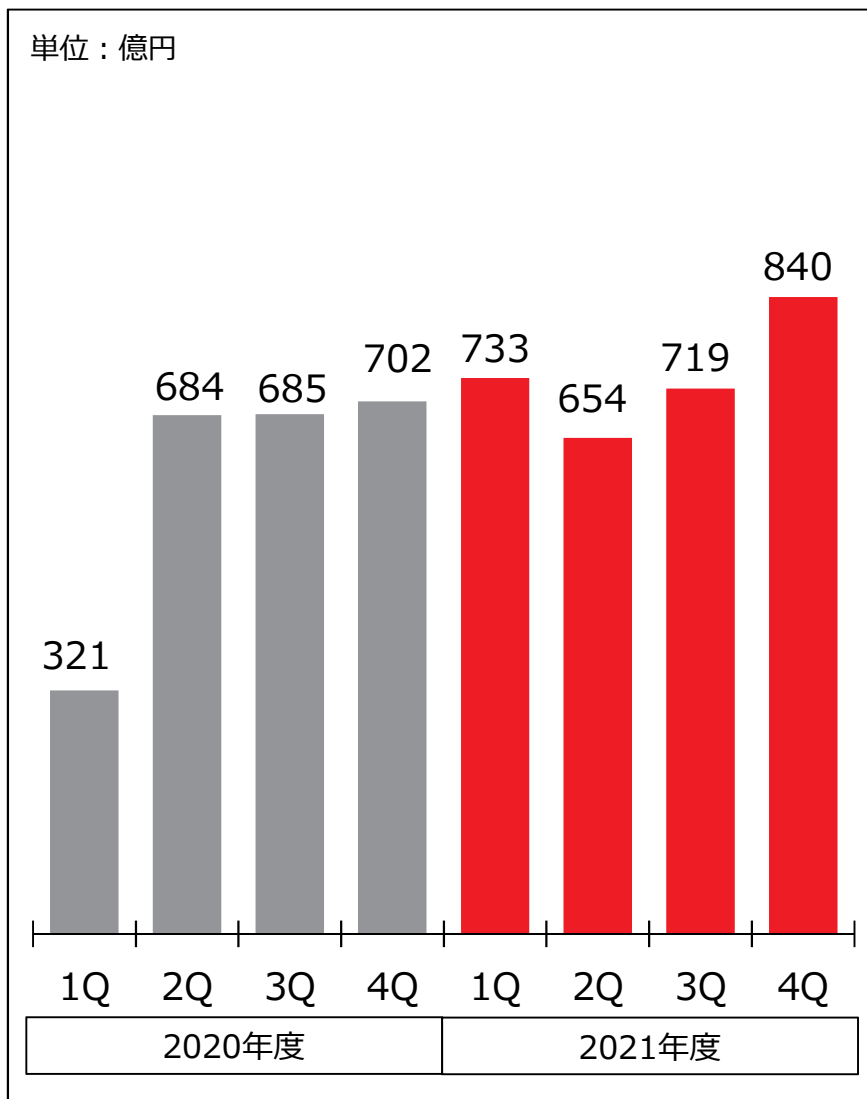
事業利益



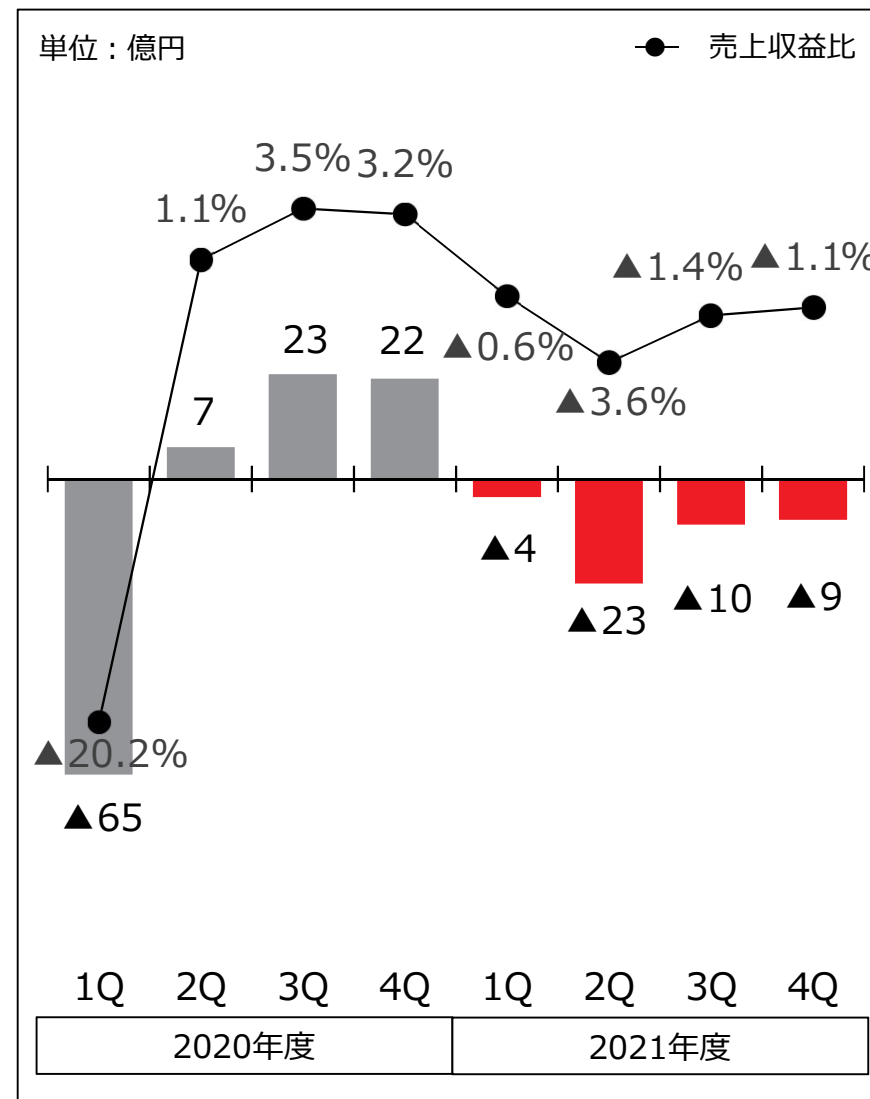
3-4) 業績推移 – 北米



売上収益



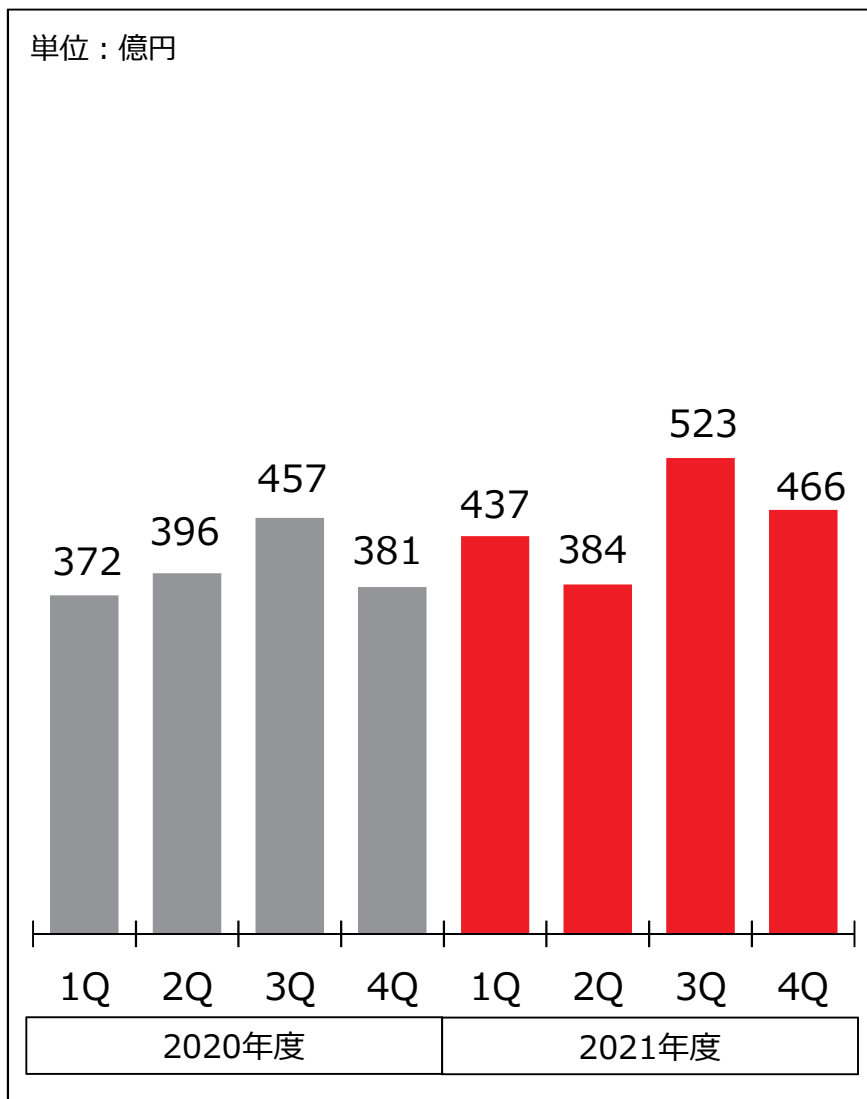
事業利益



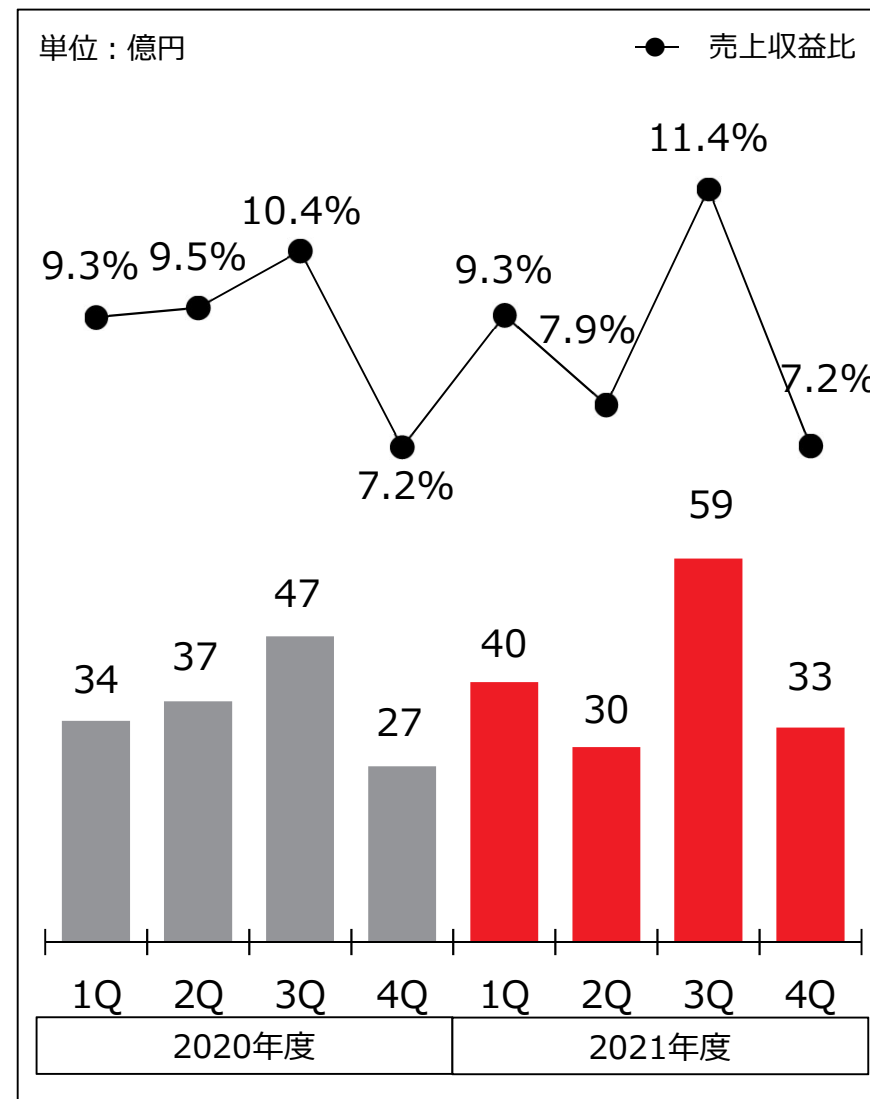
3-5) 業績推移 – 中国



売上収益



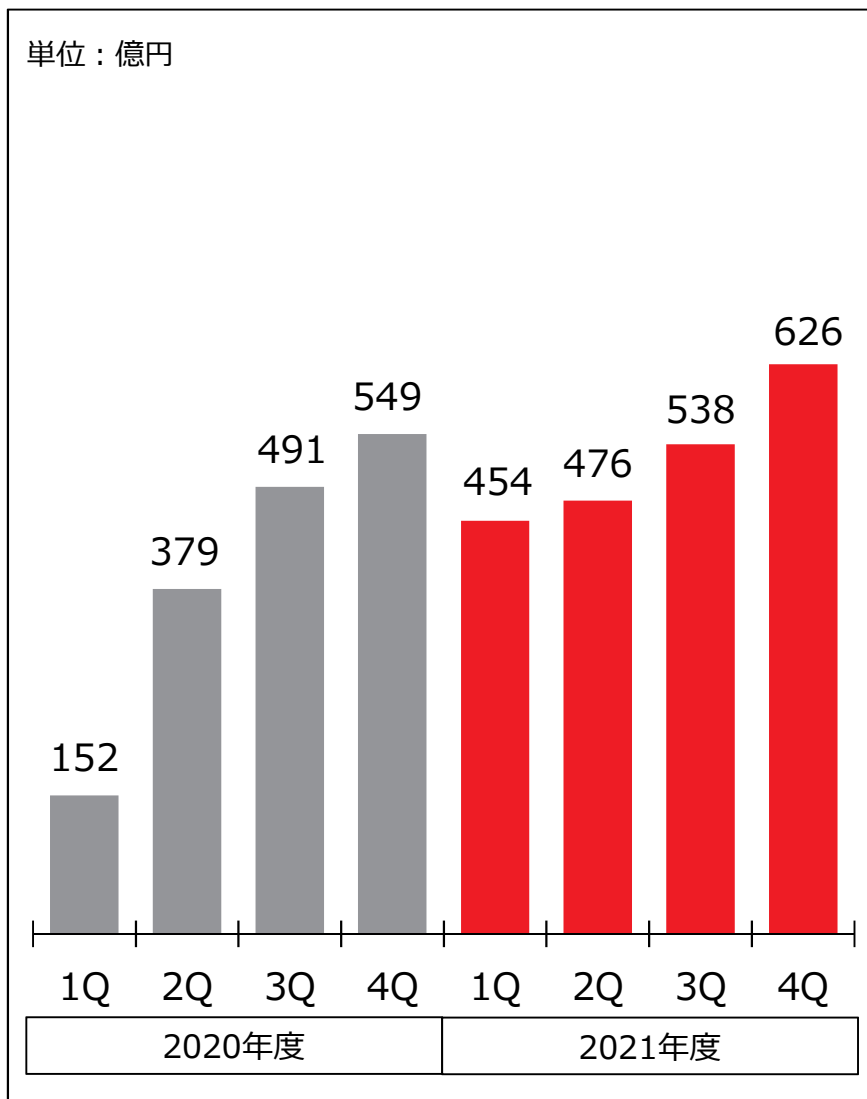
事業利益



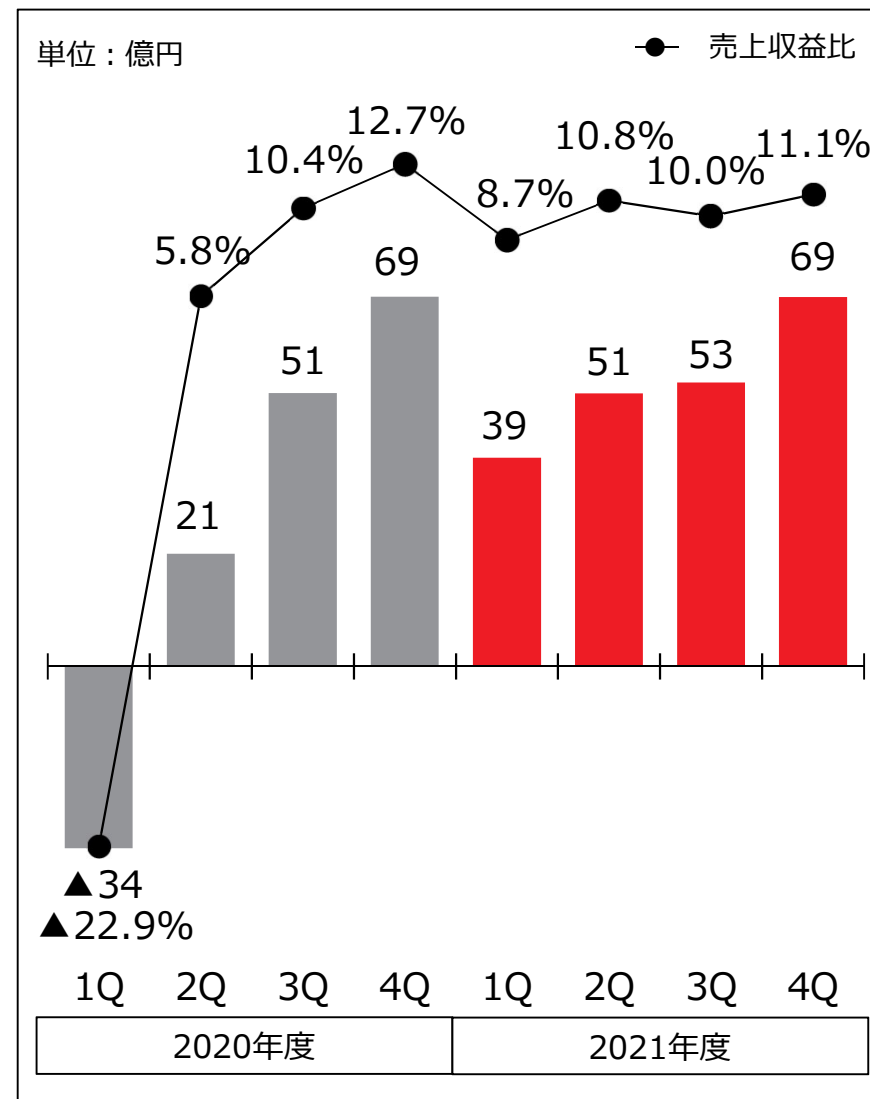
3-6) 業績推移 – アジア他



売上収益



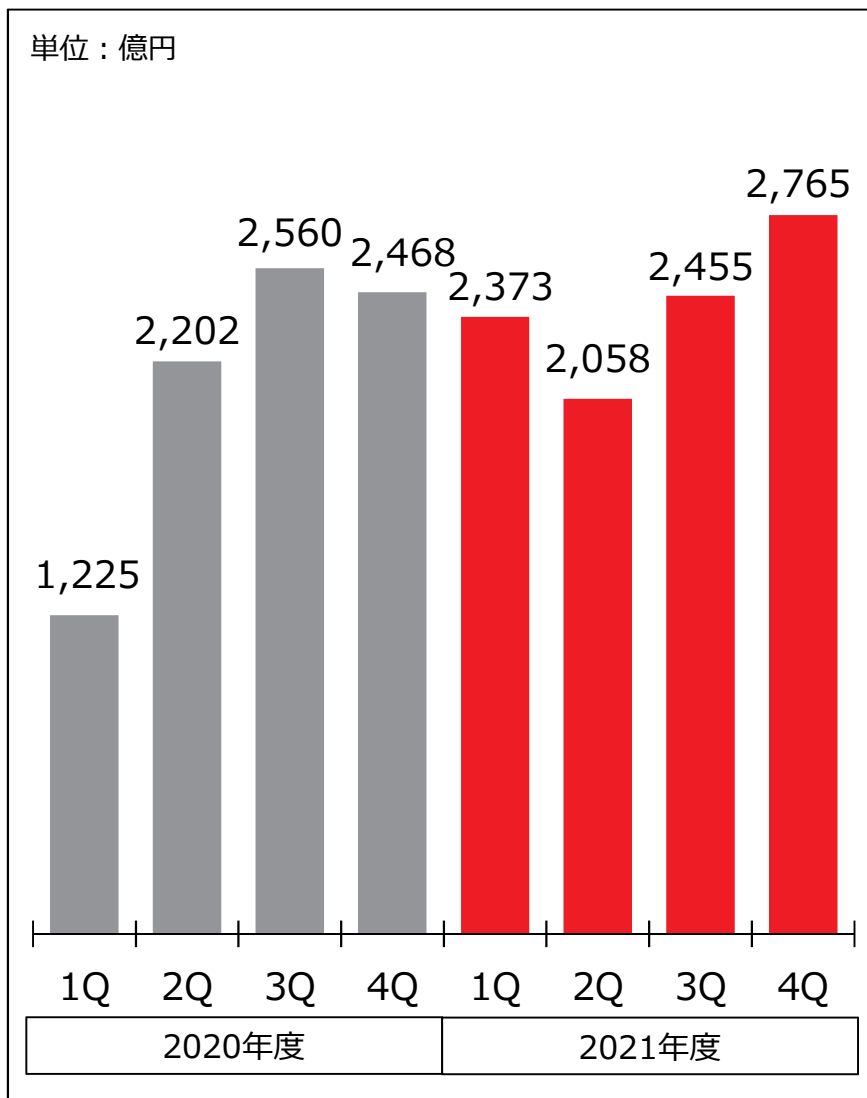
事業利益



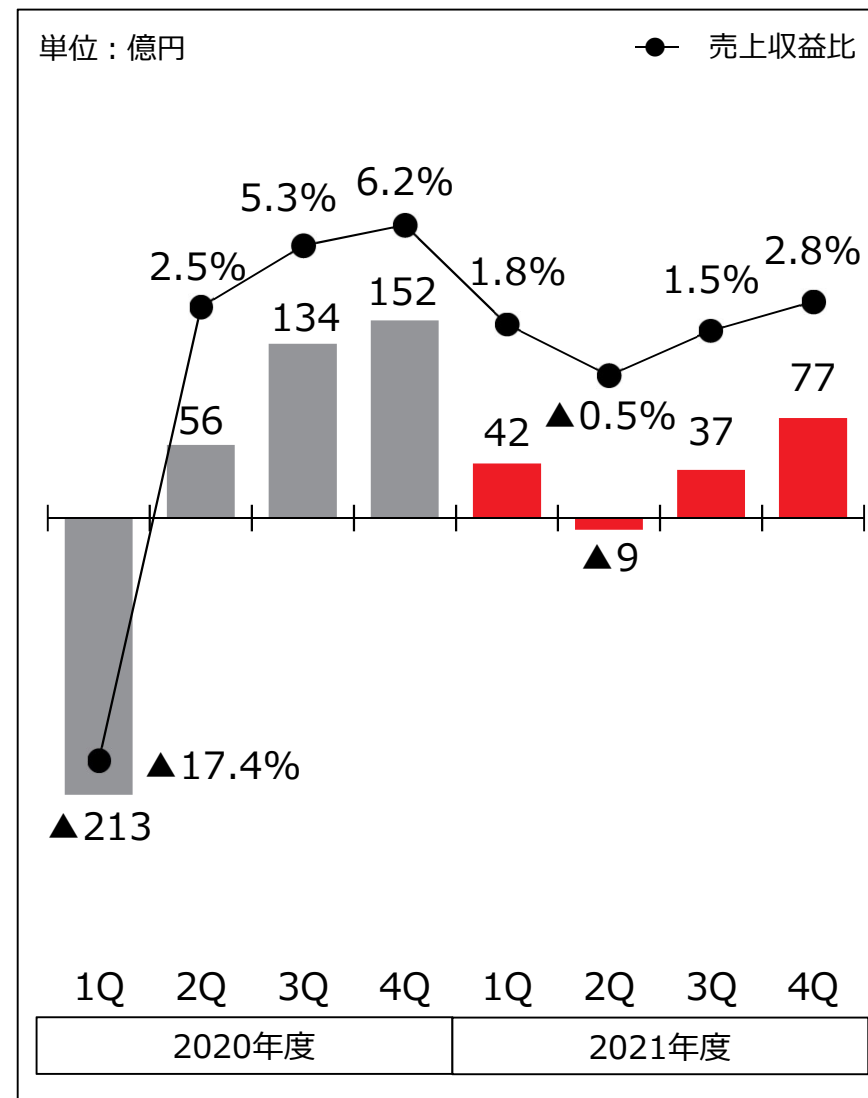
3-7) 業績推移 – 自動車 (ステアリング + 駆動)



売上収益



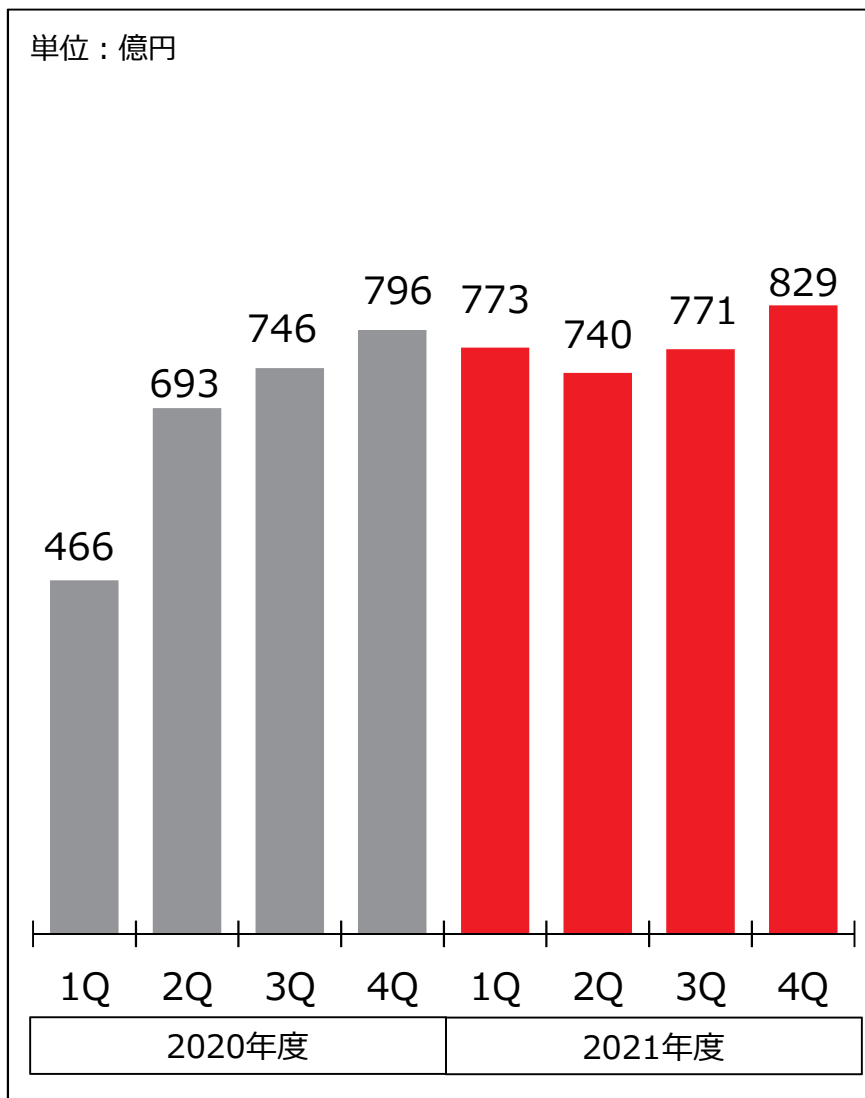
事業利益



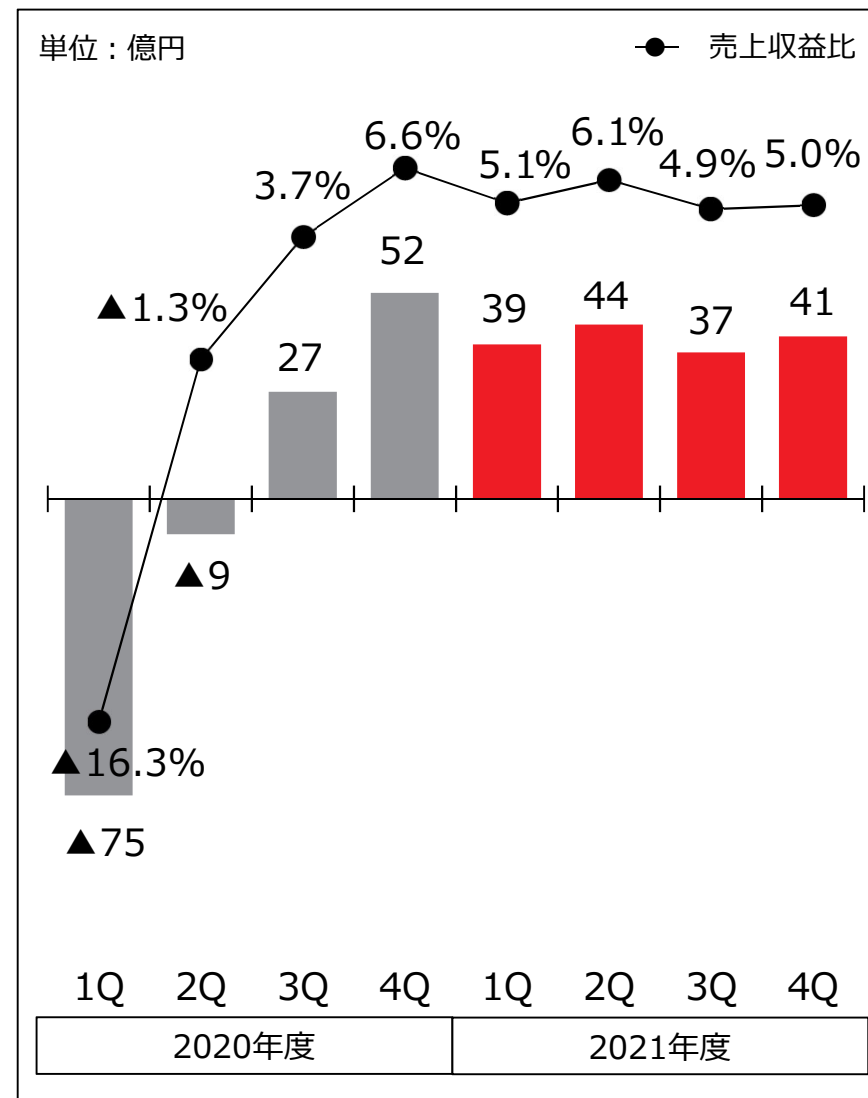
3-8) 業績推移－産機・軸受



売上収益



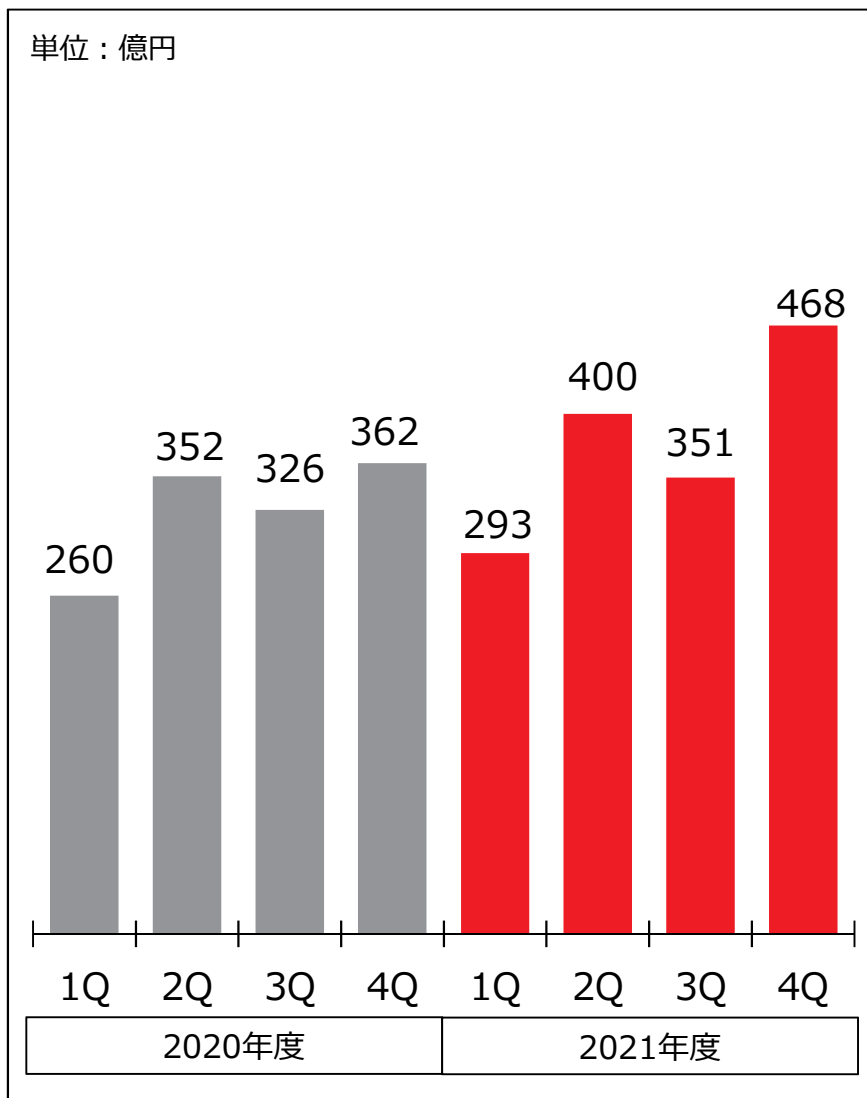
事業利益



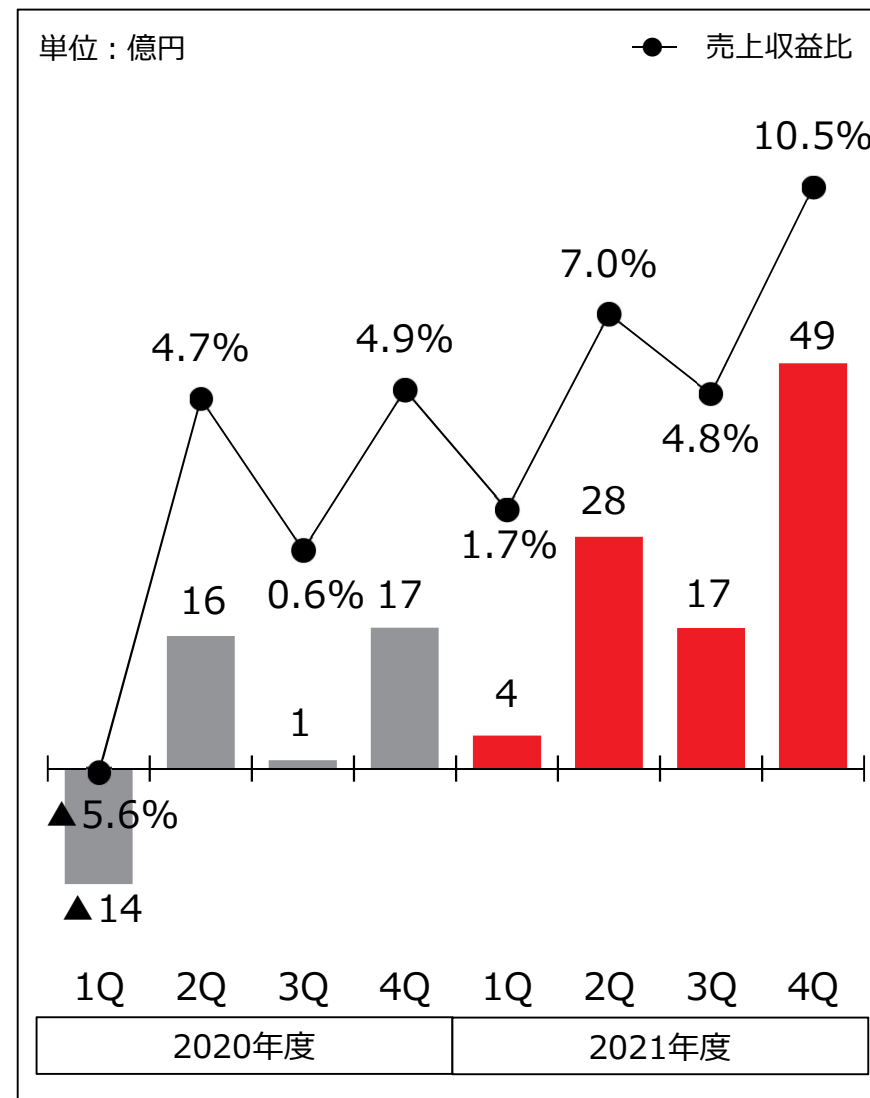
3-9) 業績推移－工作機械 (工作機械＋その他)



売上収益



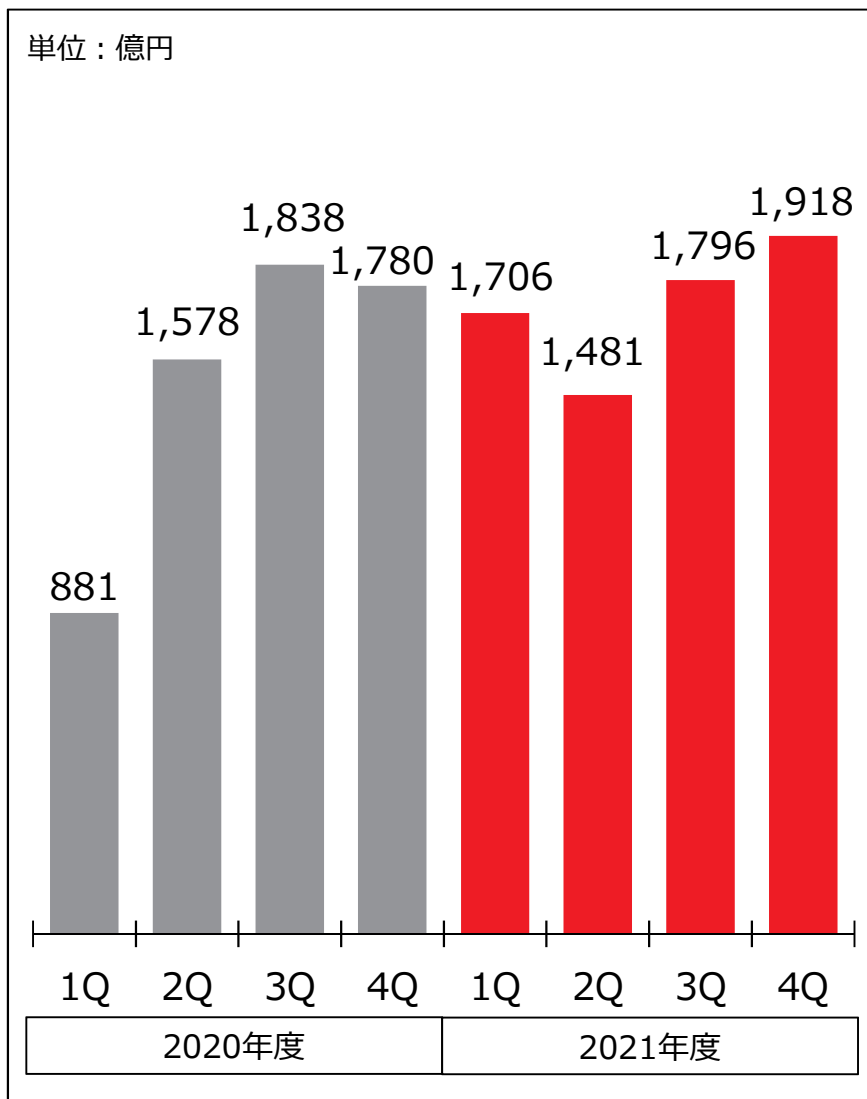
事業利益



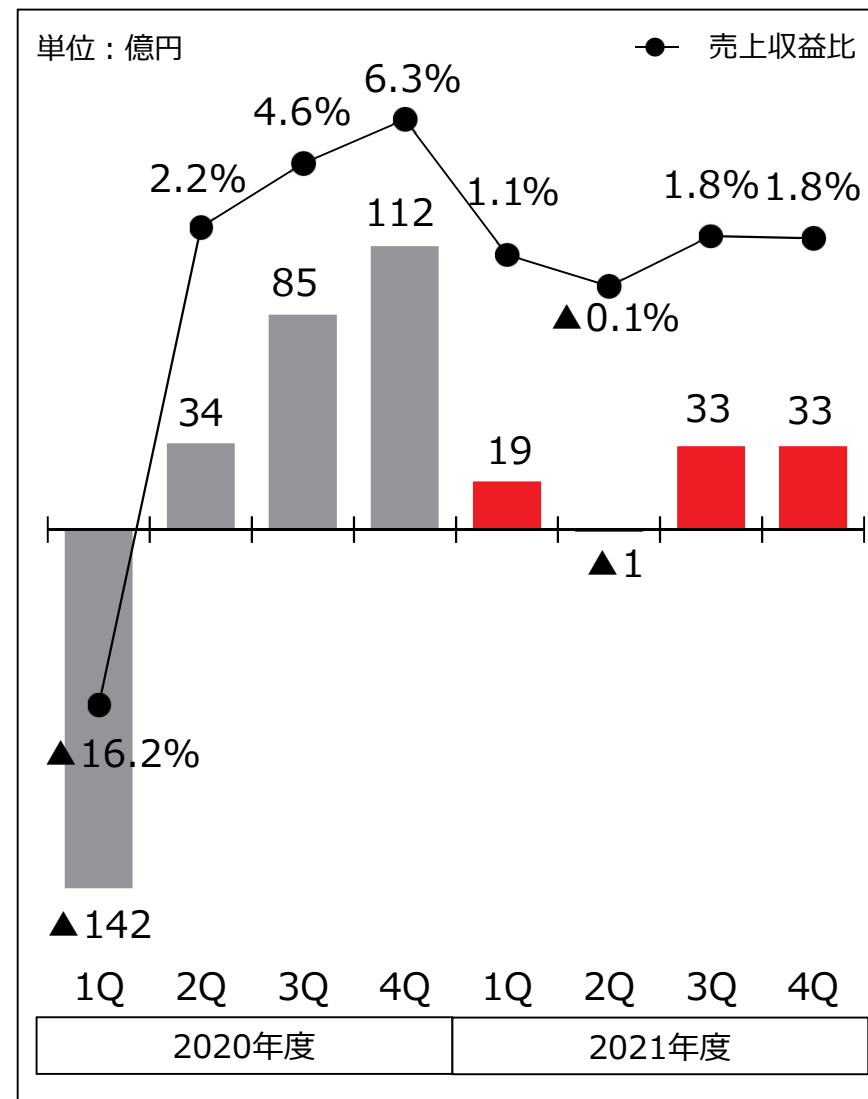
3-10) 業績推移 – ステアリング



売上収益



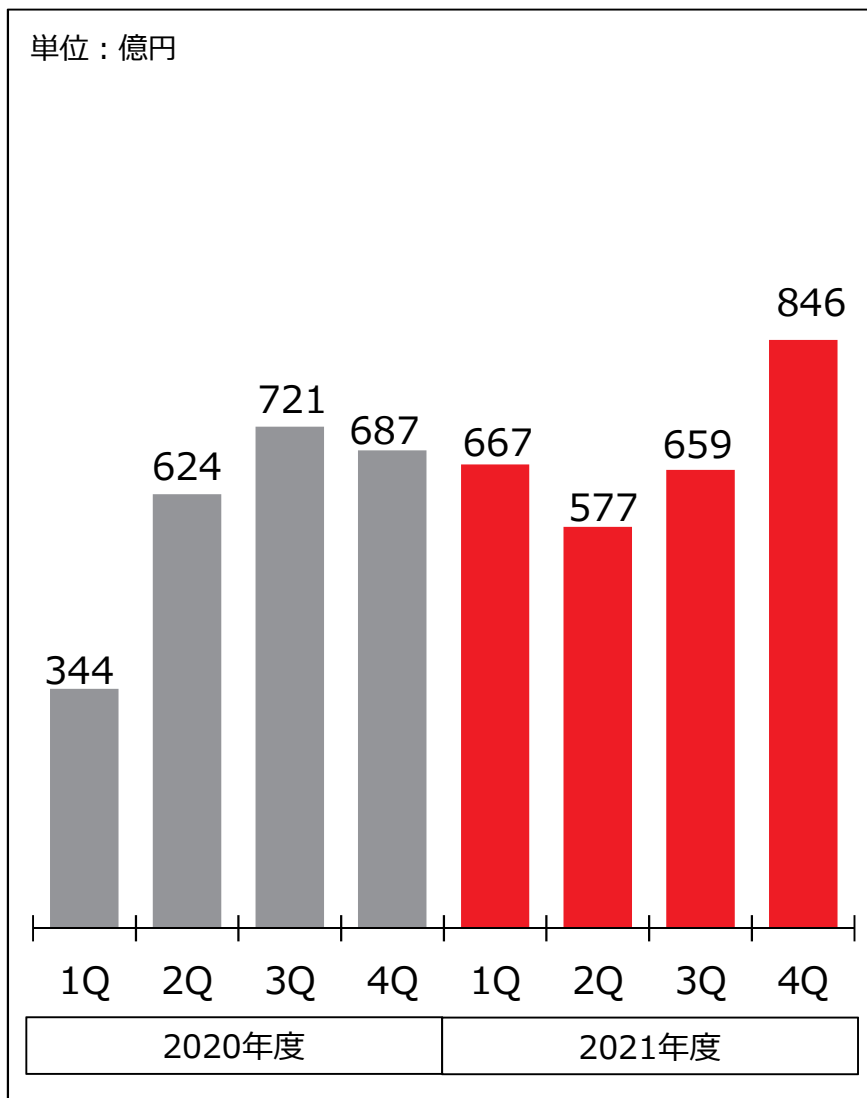
事業利益



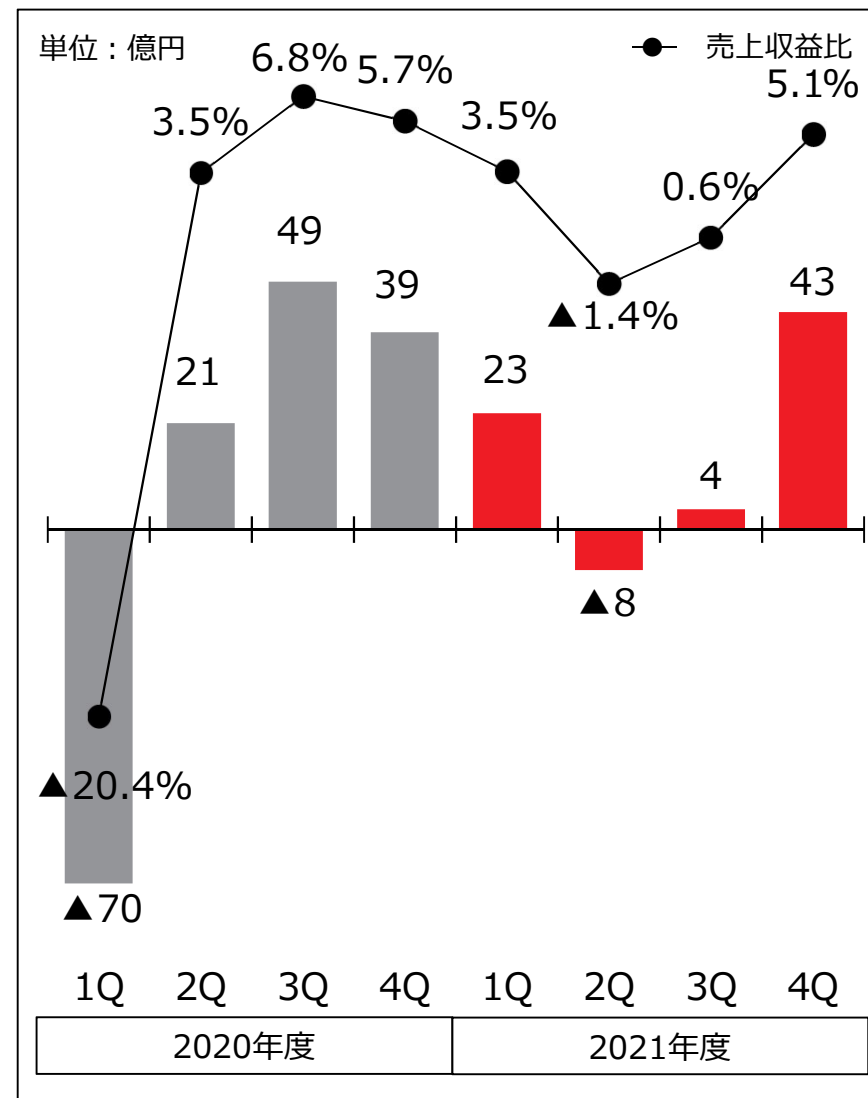
3-11) 業績推移－駆動



売上収益



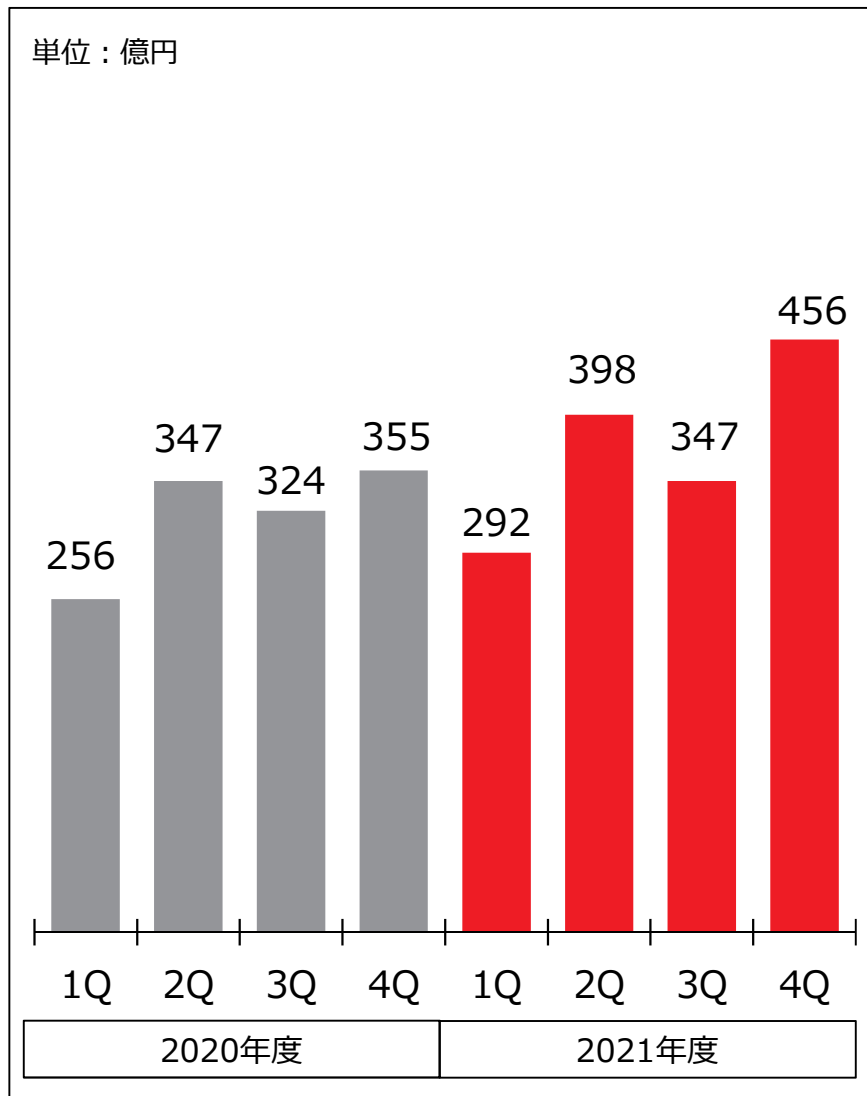
事業利益



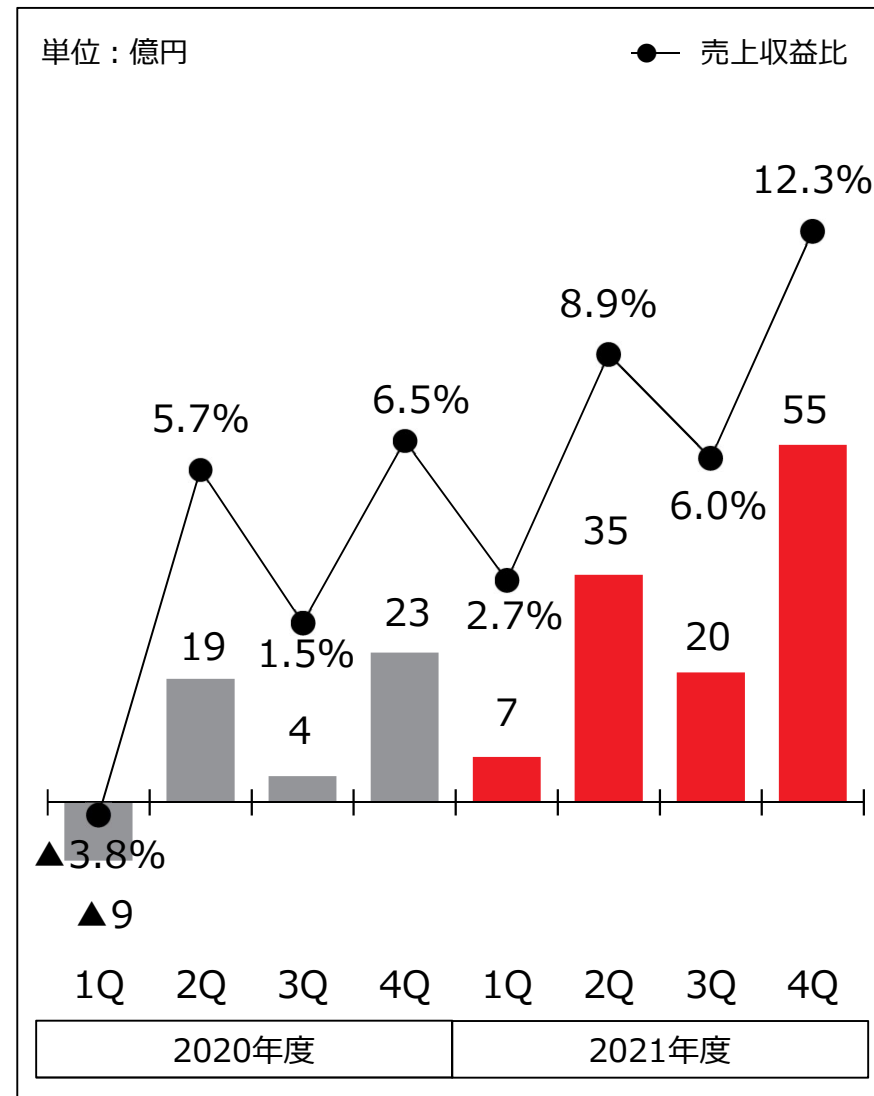
3-12) 業績推移 – 工作機械 (その他除く)



売上収益



事業利益

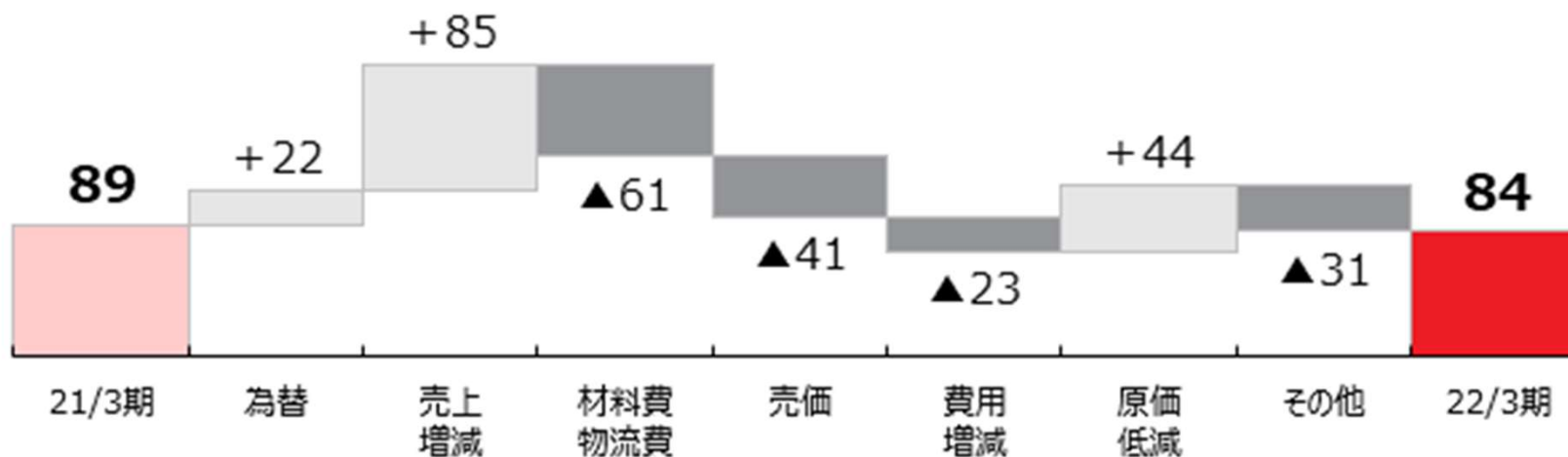


4-1) 事業利益増減分析－事業別 (ステアリング／駆動)



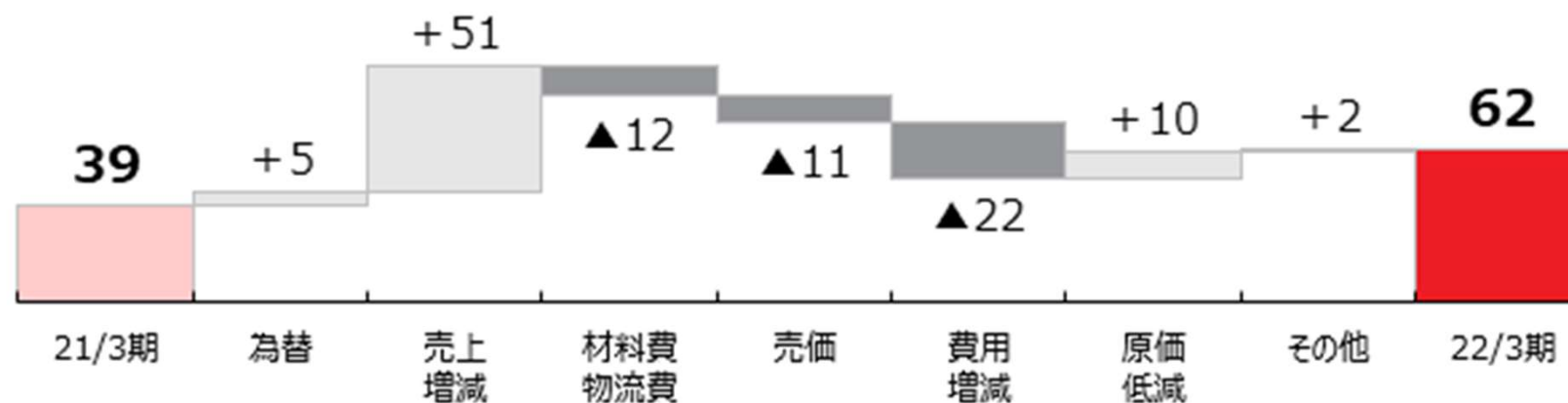
単位：億円

ステアリング



単位：億円

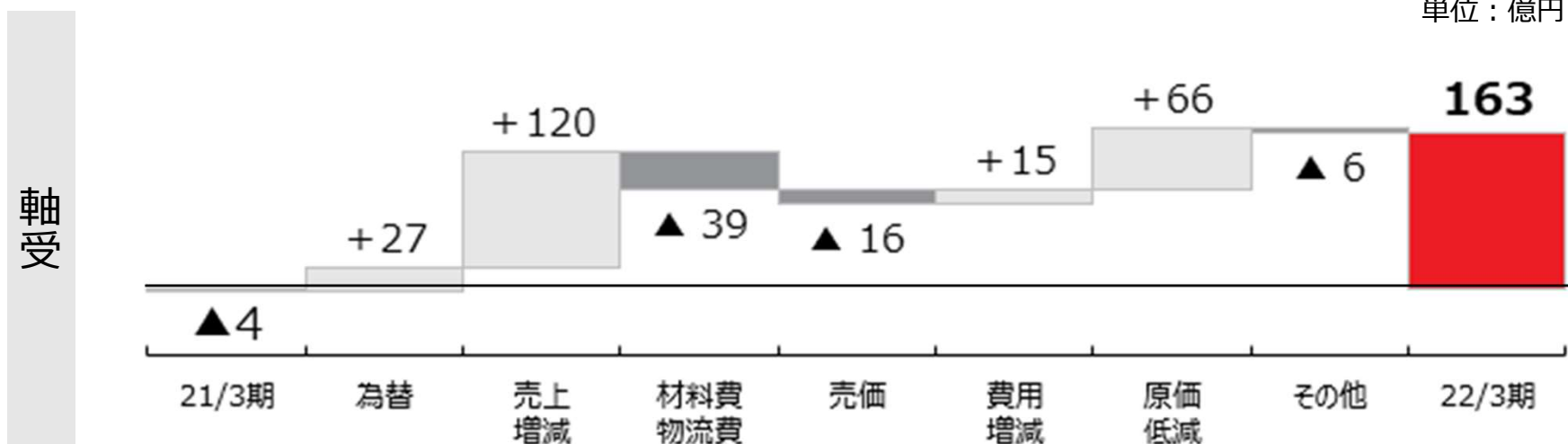
駆動



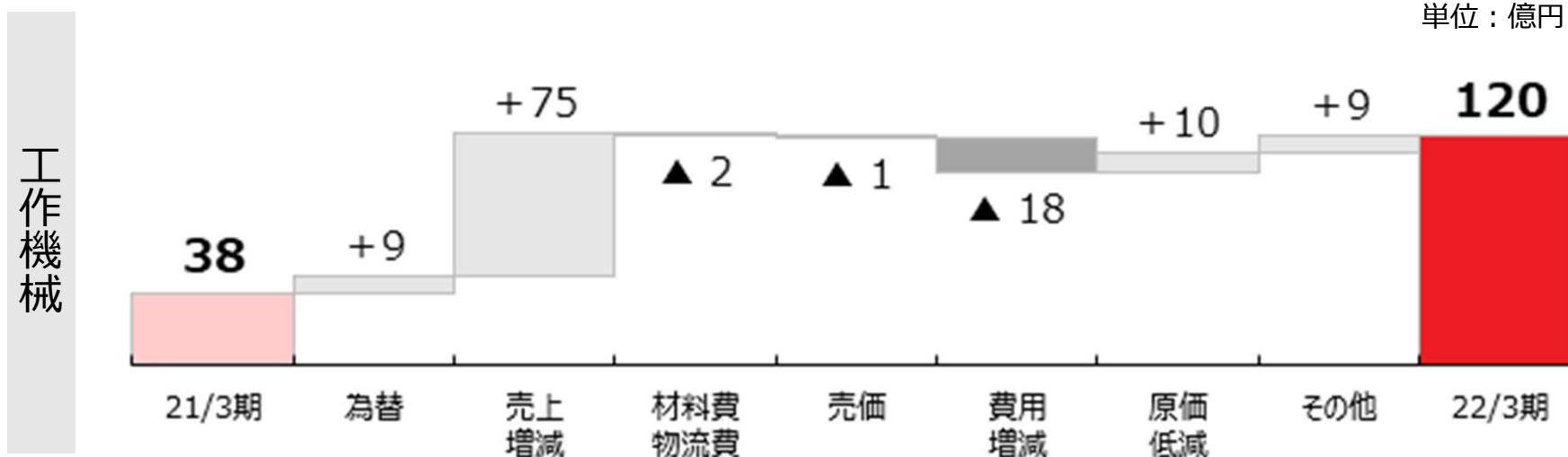
4-2) 事業利益増減分析－事業別 (軸受／工作機械)



単位：億円



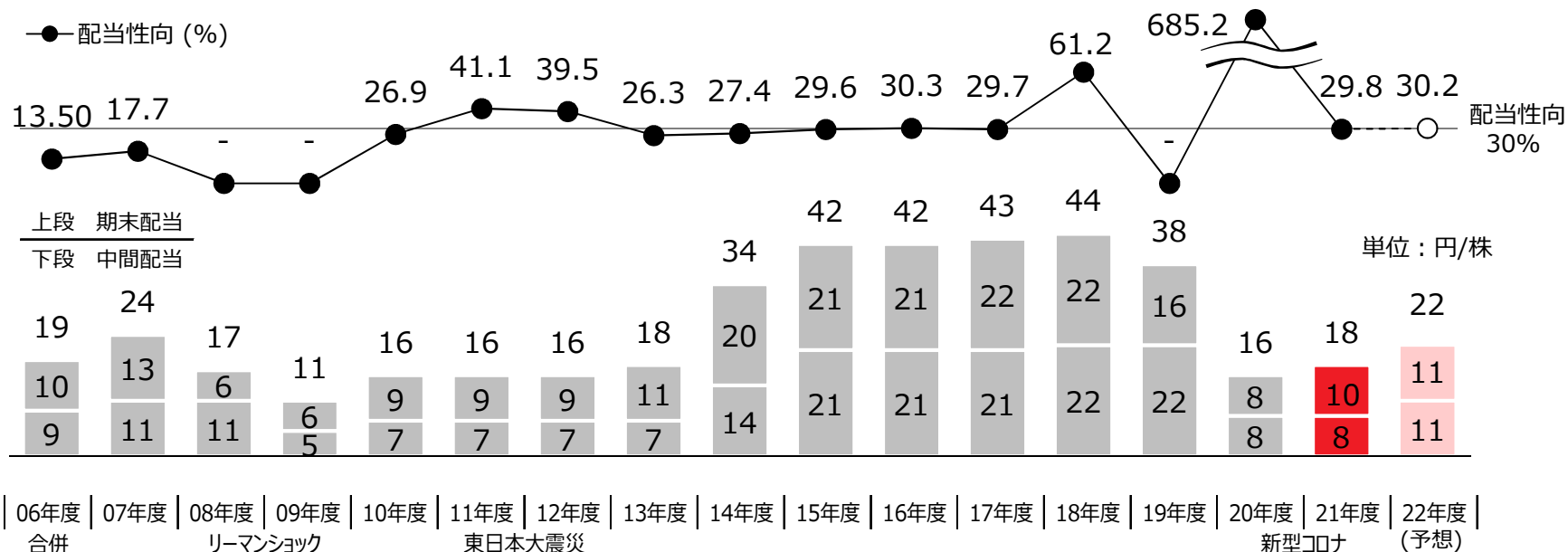
単位：億円



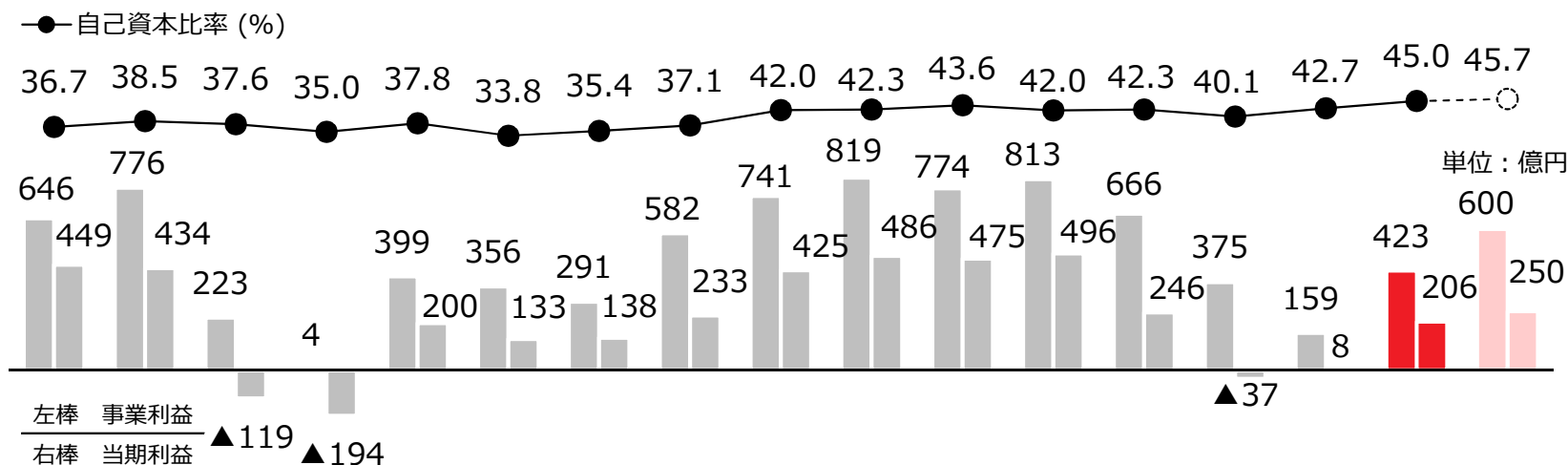
5) 配当推移



配当推移



参考 (利益推移)





【将来見通しに関する注意事項】

本資料には、業績予想、将来予測に基づく計画、戦略の記述が含まれています。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績は記載内容とは異なる可能性があります。